

上野学園大学短期大学部 音 楽 科
上野学園大学短期大学部 専攻科音楽専攻

平成23年度

講義要旨

講義要旨参照上の留意事項

授業目標 その授業の概要、到達目標

授業計画 授業の進め方についての概略、各回の授業内容

成績評価 評価を算定する方法・基準

テキスト 履修学生が購買部で購入すべき教科書（文献）、資料、楽譜類
参考図書、推薦図書は、各自で入手して参照することが望ましいもの

備考 担当教員からのメッセージや指示事項、オフィス・アワー[※]

[※]学生からの授業に関する質問を受けるために用意する時間帯

上野学園大学短期大学部 音楽科
上野学園大学短期大学部 専攻科 音楽専攻

講義要旨

目 次

上野学園大学短期大学部音楽科

教養・基礎科目

文学	(内藤俊人)	1
美学	(牧野一泉)	2
法学(日本国憲法)	(宮崎万壽夫)	3
社会学	(上羅廣)	4
心理学	(星野悦子)	5
音響学	(森田信一)	6
音楽心理学	(星野悦子)	7
生理学	(小松明)	8
医学概論	(小松明)	9
社会福祉	(瓜巢一美)	10
情報処理演習Ⅰa・Ⅰb	(菊池由佳)	11
情報処理演習Ⅱa・Ⅱb	(菊池由佳)	12

外国語科目

英語Ⅰ	(平田真)	13
英語Ⅱ	(平田真)	14
独語	(岩下久美子)	15
伊語	(宮坂真紀)	16

保健体育科目

保健体育講義	(上羅廣)	17
体育実技	(上羅廣)	18

専門教育科目

作編曲法	(三宅康弘)	19
音楽史	(永井雪子)	20
和声法Ⅰa	(佐藤亮子)	21
和声法Ⅰb	(三宅康弘)	22
和声法Ⅱa	(佐藤亮子)	23
和声法Ⅱb	(三宅康弘)	24
楽曲分析Ⅰ	(三宅康弘)	25
ソルフェージュa・b・c	(藤井孝子／三宅康弘／兼氏規雄)	26
合唱Ⅰ・Ⅱ	(兔束康雄)	27
器楽合奏Ⅰa・Ⅰb／Ⅱa・Ⅱb	(飯島和久／兼氏規雄)	28
鍵盤和声Ⅰa・Ⅰb	(石井み予乃)	29
ピアノ伴奏法	(田中美千子)	30
ピアノ特殊講義	(鈴木祥子)	31

ピアノアンサンブルⅠ	(藤井孝子)	32
ピアノアンサンブルⅡ	(藤井孝子)	33
フルートオーケストラⅠ・Ⅱ	(飯島和久)	34
声楽アンサンブルⅠ・Ⅱ	(栗田恵美子)	35
声楽特殊演習	(細谷美内)	36
民族音楽学	(濱崎友絵)	37
楽曲分析Ⅱ	(三宅康弘)	38
鍵盤和声Ⅱ	(三沢庸子)	39
音楽療法概論	(中山晶世)	40
音楽療法各論Ⅰ	(二俣泉)	41
音楽療法各論Ⅱ	(貫行子)	42
音楽療法各論Ⅲ	(中山晶世)	43
音楽療法技法	(石川克枝)	44
音楽療法総合演習	(中山晶世)	45
音楽療法実習(事前指導)	(中山晶世)	46
音楽療法実習(事後指導)	(中山晶世)	47
臨床心理学	(石橋明佳)	48
ピアノ伴奏法演習A	(藤井孝子)	49
ピアノ伴奏法演習B	(藤井孝子)	50
ウィンドアンサンブルⅠ・Ⅱ	(下野竜也)	51

専門教育科目 専門実技・副科ピアノ・副科声楽・副科器楽

ピアノ専門1年次生	(藤井孝子)	52
ピアノ専門2年次生	(藤井孝子)	53
器楽専門1年次生	(飯島和久)	54
器楽専門2年次生	(飯島和久)	55
声楽専門1年次生	(細谷美内)	56
声楽専門2年次生	(細谷美内)	57
副科ピアノ	(藤井孝子)	58
副科器楽	(飯島和久)	59
副科声楽	(細谷美内)	60

教職課程(教科に関する科目)

指揮法	(木賊川千草)	61
教育合奏	(木賊川千草)	62
教育合奏『和楽器(長唄)』	(山田正子)	63

教職課程(教職に関する科目)

教師論	(河口道朗)	64
教育原理	(瀧川淳)	65
教育心理学	(星野悦子)	66
発達心理学	(星野悦子)	67
教育方法論	(星野悦子)	68
音楽科教科教育法	(高川進作)	69
道徳教育の研究	(辻野具成)	70

特別活動	(辻野具成)	71
生徒指導	(辻野具成)	72
教育相談	(石橋明佳)	73
教職実践演習	(辻野具成)	74
教育実習	(高川進作)	75

補習授業科目

基礎和声	(三宅康弘)	76
------	--------	----

上野学園大学短期大学部専攻科音楽専攻

音楽理論	(三宅康弘)	79
作曲家作品研究	(佐藤亮子)	80

上野学園大学短期大学部 音楽科

講義要旨

文学

講師 内藤俊人

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 文学作品の理解には、その作品が生み出された歴史的・社会的な背景を知る必要がある。この授業では、19世紀フランスの代表的な作家をとりあげ、彼らが自分たちの生きている時代をどのようにとらえ、その中からどういう新しい価値を持つ作品を創りあげていったのかを考察する。19世紀の歴史や文学についての知識は、同じ時代の音楽作品の理解にも役立つだろう。

授業計画

第1回 古典主義からロマン主義へ

第2回 スタンダールの恋愛論

第3回 『幻想交響曲』とロマン主義

第4回 『夜のガスパール』について

第5回 ロマン主義からレアリズムへ

第6回 『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』1

第7回 『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』2

第8回 小説に描かれた不倫

第9回 ボードレーとパリ

第10回 ゾラとパリ

第11回 19世紀から見た未来世界

第12回 象徴主義と芸術

第13回 マラルメとドビュッシー

第14回 ベル・エポック期の文化と社会

第15回 まとめ

成績評価 成績の評価は、学期末のレポート提出と平常点による。

テキスト 教科書は特に用いないが、講義の中で、必要に応じて参考図書を指示する。

オフィス・アワー 研究室（月：12：30～13：00）

美学「美学の体系的概説と演習」

教授 牧野一泉

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 わたしたちは「音楽」、「美術」、「芸術」、などの言葉を普段当然のように使っている。その言葉を使う時、特定の芸術観の偏見でものをみていることに、気づかない。この講義では、具体的な東西の美術作品や芸術事象を手がかりにしながら、テーマに沿って表現者としての立場から、理論的に考えてみる。
併せて、若干の初歩的な美術演習を行うことで、より具体的にする。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	美と創造
第3回	観念と想像力
第4回	自然美
第5回	模倣と抽象
第6回	表現と象徴
第7回	デザインとメディア
第8回	修辞と様式
第9回	色とかたち
第10回	実技演習(1)
第11回	実技演習(2)
第12回	実技演習(3)
第13回	実技演習(4)
第14回	実技演習(5)
第15回	演習講評

成績評価 平常点及び作品で評価する。

テキスト 必要の応じて教授者が資料を用意する。

〈参考図書〉

秋山光和、新規矩男、江上波夫、高階秀爾、ほか著『世界美術辞典』（新潮社 1985年）
粟田賢三、古在由重、ほか著『哲学小辞典』（岩波書店 1979年）

オフィス・アワー 研究室 授業終了後、研究室にて質問等を受け付ける。

備考 演習用具は準備しなくてもよい。若干の実習費負担が必要である。

法学(日本国憲法)

講師 宮崎万壽夫

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標

法律は日常生活において密接に関係しており、非常に身近な存在である。そこで、まずは法律に興味関心をもってもらい、次に基本的知識を身につけ、更には問題点を分析して自分の意見を形成できること、これが本授業の到達目標になる。そのためには、具体的な裁判例や設例等を通して、双方向でともに考える授業方法を実施する。

授業計画

第1回 イン트로ダクション

第2回 法規範、憲法の基本原理

第3回 人権の歴史等

第4回 生命自由幸福追求権、法の下での平等

第5回 思想良心の自由、信教の自由

第6回 表現の自由

第7回 経済的自由

第8回 民事司法

第9回 刑事司法

第10回 裁判員裁判

第11回 統治機構（立法行政司法）

第12回 現代的な法律問題その1

第13回 同上その2

第14回 同上その3

第15回 まとめ

成績評価

平常点（授業態度、発言等）レポート、試験結果等を総合して評価する。

テキスト

初宿正典ほか編著『目で見える憲法 第3版』（有斐閣）

オフィス・アワー

授業終了後、教室において受け付ける。

社会学「社会の中の自分」

大学准教授 上羅 廣

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 私たちは社会の中で他の人々と関わり合いながら生活を営んでいる。自分自身が社会や集団の中でどのように関係をつくりながら生きているのかを、自分を中心に相対的に位置づけながら、自分を再発見していくことを目標にしたい。
一つひとつの社会的事実を関連付けながら、自分自身の思考を深める機会にしてほしい。

授業計画

第1回	社会学とは何か～社会学のイメージづくり、方法と対象
第2回	社会学の歩みを素描する
第3回	日本社会と私1～時代の中での自分
第4回	日本社会と私2～現代社会の中の自分
第5回	他者と私～社会的行為のしくみ
第6回	私の行為と目標達成
第7回	家族の中の私1～家族のしくみの中で
第8回	家族の中の私2～家族の働きの中で
第9回	家族の中の私3～少子・高齢社会の中で
第10回	家族の中の私4～単身世帯の増加の中で
第11回	音楽社会学概説1～ウェーバー
第12回	音楽社会学概説2～ジルバerman
第13回	音楽社会学概説3～アドルノ
第14回	音楽社会学概説まとめ
第15回	まとめ

成績評価 授業態度、試験、レポートによって、評価する。

テキスト 使用せず。参考文献に関しては授業の中で、その都度紹介する。

オフィス・アワー 月（前期）10：00～16：00 水 14：30～16：30 木 10：00～14：30
Eメールも可

心理学

大学教授 星野悦子

※音楽療士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 心理学とは、自分も含めた人間の意識や行動の機構を科学的に解明しようとする学問であり、広範な応用領域をもちつつ、学際領域にも貢献している。その素養は、芸術や教育、セラピーを学ぶ学生には欠かせないものといえる。授業目標は、基礎心理学を中心として全体にわたる大要を把握することである。

授業計画

第1回 心理学とはなにか～心理学の定義・歴史・領域

第2回 心理学の研究方法

第3回 感覚～一般特性

第4回 知覚～視知覚を中心に

第5回 記憶～短期記憶

第6回 記憶～長期記憶

第7回 知能

第8回 感情と欲求・動機づけ～感情

第9回 感情と欲求・動機づけ～動機・欲求

第10回 パーソナリティ～性格の理論

第11回 パーソナリティ～性格の形成

第12回 発達～乳児期から成人後期まで

第13回 社会～対人認知と対人行動

第14回 社会～個人と集団・組織

第15回 まとめ

成績評価 受講態度と試験成績を総合しておこなう。

テキスト 相馬壽明編著『心理学for you』（八千代出版）

オフィス・アワー 月・水・木（12：20～12：40）研究室

備考 この授業では基礎心理学を中心に学ぶ。科学的で客観的な心の理解と把握は、混沌とした現代に生きる人の必須の指針となるだろう。

音響学

講師 森田信一

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 この講義では、音楽の演奏をする際に知っておく必要のある音響学的な知識を中心に扱う。まず、弦楽器（ピアノを含む）、管楽器、打楽器、電子楽器などの発音の仕組みを理解すること、そして音階と調律の物理的な原理を知ることがをねらいとする。また、室内やホールの構造とその音の響き方を理解し、より良い演奏と鑑賞のための基礎知識を身につけることをねらいとする。

授業計画

第1回	音階とは
第2回	音階とは
第3回	音階と調律について
第4回	音階と調律について
第5回	楽器の発音の仕組み（弦楽器）
第6回	楽器の発音の仕組み（管楽器）
第7回	楽器の発音の仕組み（打楽器）
第8回	楽器の発音の仕組み（電子楽器）
第9回	室内の音響
第10回	室内の音響
第11回	室内での録音
第12回	ホールの音響
第13回	ホールの音響
第14回	ホールでの録音
第15回	全体のまとめ

成績評価 授業内での小レポートを合計して評価する。

テキスト 適宜プリントを配布する。

オフィス・アワー 集中講義のため、休み時間と授業終了後に教室で対応する。

音楽心理学

大学教授 星野悦子

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 音楽心理学とは、音楽に関係した人間の行動とそれに伴う精神活動についての心理学である。音楽は、構造をもった「音楽」として認知（理解や記憶）される対象であり、音楽聴取には知覚・認知の二過程が含まれる。また、人は音楽の表現のなかに美しさ、喜ばしさ、悲しさ、力強さといった様々な感情を感じ取り、さらに自分自身の中に強く深い感情を引き起こされる。それはなぜだろうか。本講義では、こうした音楽の認知、記憶、感情についての心理学的知見を中心に、「音楽をする人間の心理と行動」をわかりやすく解説する。

授業計画

第1回 音楽心理学とはなにか（オリエンテーション）

第2回 音楽の知覚(1)

第3回 音楽の知覚(2)

第4回 音楽の認知

第5回 音楽の記憶

第6回 音楽と一般認知能力

第7回 音楽の感情

第8回 音楽と感情

第9回 音楽の感情の理論

第10回 音楽的能力の発達(1)

第11回 音楽的能力の発達(2)

第12回 音楽と脳(1)

第13回 音楽と脳(2)

第14回 演奏と練習

第15回 まとめ

成績評価 受講態度と試験の成績を総合しておこなう。

テキスト 星野悦子著『音楽心理学テキスト』※購買部扱い

オフィス・アワー 月・水・木（12：20～12：40）研究室

生理学

講師 小松 明

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生、専攻生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 ヒトは生きていくためのいろいろなしくみを備えている。食物を食べ、消化し、排泄する。息を吸い、血を巡らせて酸素や栄養素を全身に運び、老廃物を排泄する。眼や耳で外界のできごとを知り、考え、声を出し、手足を使って外界に働きかける。体のしくみを理解するための科学を学ぶことによって、明るい健康な生活を営むための基礎的な素養を身につけていただければ幸いである。

授業計画

- 第1回 脳と神経系1
- 第2回 脳と神経系2
- 第3回 骨格
- 第4回 筋肉
- 第5回 心臓と循環1
- 第6回 心臓と循環2
- 第7回 心臓と循環3
- 第8回 呼吸
- 第9回 消化1
- 第10回 消化2
- 第11回 泌尿器
- 第12回 内分泌
- 第13回 生殖器
- 第14回 感覚器1
- 第15回 感覚器2

成績評価 成績評価はレポート試験（試験問題を配布、後日記入したものを提出）で行う。

テキスト 石川 隆（監修）『カラー図解 生理学の基本がわかる事典』（西東社）

オフィス・アワー 質問等は、電子メールで対応。
 件名に、「上野学園生理学 学生氏名」と記すこと。

医学概論

講師 小松 明

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 音楽療法を理解するには医学、特に心身医学的な考え方が必要とされる。『医学概論』では心身医学や慢性疾患、精神医学を中心に音楽療法に必要な医学の概要を学ぶ。また、医学における音楽療法の位置づけ、医学と法律について概説する。医学概論には難しい内容が含まれますが、かみ砕いて説明しますので、安心して参加してください。

授業計画

第1回 神経系のしくみ1

第2回 神経系のしくみ2

第3回 神経系のしくみ3

第4回 脳とこころのしくみ

第5回 感情と脳

第6回 自律神経系と内分泌系

第7回 ストレスとストレス反応

第8回 心身症

第9回 慢性疾患

第10回 不安・抑うつ反応

第11回 プリント『心療内科』1 心身医学とは

第12回 プリント『心療内科』2 心と病の実験

第13回 プリント『心療内科』3 心身症発生のからくり

第14回 プラシーボ効果とEBM

第15回 医学と法律、読書案内

成績評価 成績評価はレポートで行う。レポートの課題は課題図書を読んで設問に答えることと、自分自身の体験などを心身医学的な立場から再解釈してレポートにまとめること、の2つである。

テキスト 夏木静子著『心療内科を訪ねてー心が痛み、心が治す』（新潮文庫）

プリント「心療内科「病いは気から」の医学」

プリント「音楽療法士に必要な医学的知識」、他

オフィス・アワー 質問等は、電子メールで対応。

件名に、「上野学園医学概論 学生氏名」と記すこと。

備考 『医学概論』を履修する学生は、1年のときにできるだけ『生理学』を履修しておくこと。

社会福祉

講師 瓜巢一美

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 社会福祉は国民生活に対する大切な社会政策であること、そのために、社会福祉の理念、歴史的発展と共に現状の社会福祉制度、働く内容や働く人の資格、職種を知る、とくに音楽療法と福祉利用者とのかかわり、その意義・役割などを含めて理解を深めるようにしたい。

授業計画

第1回 オリエンテーション（テキスト、文献等の説明）

第2回 社会福祉と国民生活との関係

第3回 社会福祉の歴史的な発展（用語、その背景）

第4回 社会福祉の現状における理念（哲学、思想）

第5回 国民生活における社会福祉的課題を考える

第6回 社会保障と社会福祉や社会福祉施策

第7回 社会福祉法制度と各種行政機構

第8回 貧困・低所得問題と福祉施策

第9回 児童・家庭問題と福祉施策（保育、母子家庭など）

第10回 児童・家庭問題と福祉施策（虐待、非行など）

第11回 障害者問題と福祉施策

第12回 高齢者問題と福祉施策（生活全般）

第13回 高齢者と地域、保健福祉施策（認知症など）

第14回 社会福祉充実とボランティア活動の役割

第15回 社会福祉従事者（職業従事者）の現状など

成績評価 小テスト、期末テストを中心にする（総合点は100点）

テキスト 未定

オフィス・アワー 授業の合間

情報処理演習 Ia・Ib

助教 菊池由佳

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 コンピュータの新時代に入った現代、いわゆるクラウドコンピューティング時代は、クラウドサービスの取得が重要である。そしてWeb検索・Windows・ワープロソフト（Word）の基礎的知識と基本的な操作方法を学ぶ。また情報を発信したり多様な情報を取捨選択し、現場で活躍できる、いわゆる「メディア・リテラシー」の能力を身につけていくことである。

授業計画

第1回	Windowsの基本操作・Wordの基礎知識
第2回	文字の入力・保存
第3回	文章作成1 一般的な社外文書の作成・文字の修飾
第4回	文章作成2 一般的な社内文書の作成・文書作成の書式設定
第5回	文章の印刷・ページ設定
第6回	表作成1
第7回	表作成2 練習問題
第8回	文書の応用的な編集機能
第9回	文書の応用的な編集機能・練習問題
第10回	表現力をアップする機能
第11回	図形描画機能の活用
第12回	インターネットの基礎（検索サイト）・文例の利用・テンプレートのダウンロード
第13回	PowerPointの基礎知識・プレゼンテーションの作成
第14回	プレスフォルダと文字編集・図形やオブジェクト・特殊効果（アニメーションの設定）
第15回	まとめ

成績評価 授業態度・試験を合わせて総合的に評価するが、個人個人の達成度も加味する。

テキスト 『Microsoft Office Word2007 基礎』（FOM出版）

オフィス・アワー 授業終了後教室にて

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 日常生活における利便性の向上や仕事をより効率的に行うには、どのようにコンピュータを活用すればよいか。表計算ソフト（Excel）を活用して「表計算」「グラフ作成」「並べ替え」「関数」等学び、そして演習問題を解くことにより、各分野で活躍ができるように目指していくことである。

授業計画

第1回	Excelの基礎知識、データの入力・保存
第2回	表作成1 罫線
第3回	表作成2 書式設定
第4回	数式の入力1 関数の入力方法
第5回	数式の入力2 相対参照・絶対参照使い分け
第6回	表の印刷・ページ設定・印刷プレビュー
第7回	複数シートの操作
第8回	イラスト挿入、グラフィックの活用（複数の図形・Smart Art）
第9回	グラフの作成1
第10回	グラフの作成2 グラフの変更
第11回	データベース・並べ替え（名簿作成）
第12回	PowerPoint プレゼンテーション資料作成
第13回	PowerPoint プレゼンテーション資料作成・発表
第14回	総合問題
第15回	まとめ

成績評価 授業態度・試験を合わせて総合的に評価するが、個人個人の達成度も加味する。

テキスト 『Microsoft Office Excel2007 基礎』（FOM出版）

オフィス・アワー 授業終了後教室にて

英語 I

講師 平田 眞

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 英語 I では、基本の読む、書く、聞く、話す能力を向上、または再構築を目指す。国際的な仕事をする可能性の高い音楽分野では、英語でコミュニケーションをとれることが大きな武器となるであろう。

授業計画 *Global Health & Environment: VOA Topics from Around the World* (2011) と *A Look at Global Health & Environment with VOA* (2009) というテキストを使う。

第1回	イントロダクション	第16回	Unit 15
第2回	テキスト：2011 Unit 1	第17回	テキスト：2009 Unit 1
第3回	Unit 2	第18回	Unit 2
第4回	Unit 3	第19回	Unit 3
第5回	Unit 4	第20回	Unit 4
第6回	Unit 5	第21回	Unit 5
第7回	Unit 6	第22回	Unit 6
第8回	Unit 7	第23回	Unit 7
第9回	Unit 8	第24回	Unit 8
第10回	Unit 9	第25回	Unit 9
第11回	Unit 10	第26回	Unit 10
第12回	Unit 11	第27回	Unit 11
第13回	Unit 12	第28回	Unit 12
第14回	Unit 13	第29回	Unit 13
第15回	Unit 14	第30回	Unit 14

成績評価 平常点と年度末試験

テキスト 安浪誠祐／リチャード・S・ラビン編著『*Global Health & Environment: VOA Topics from Around the World*』(松柏社 2011年)

安浪誠祐／リチャード・S・ラビン編著『*A Look at Global Health & Environment with VOA*』(松柏社 2009年)

オフィス・アワー 水曜日 12：30～13：00 他適宜

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 英語Ⅱでは、読解能力の向上を目標とする。テキストに書かれているテーマや内容を的確に把握し、自分の言葉に写しかえる作業を進めて行く。

授業計画 アリソン・ルーリエ著、*The Language of Clothes*をテキストに使う。1～15回では、「ファッションと地位」の関係を歴史的に眺めていく。16～30回では「色と柄」が表わしているものとそれを着ている人の性格や気分を関係付けていく。

第1回	イントロダクション	第16回	「色と柄」が表わしているもの
第2回	ギリシャ・ローマ時代～19世紀	第17回	「色と柄」が表わしているもの
第3回	ギリシャ・ローマ時代～19世紀	第18回	白
第4回	着飾ることと地位	第19回	白
第5回	着飾ることと地位	第20回	黒
第6回	体型と服装	第21回	黒
第7回	体型と服装	第22回	黒
第8回	時間帯と服	第23回	黒
第9回	時間帯と服	第24回	灰色
第10回	服の数	第25回	赤
第11回	服の数	第26回	赤
第12回	服の素材	第27回	黄、青
第13回	服の素材	第28回	黄、青
第14回	服の素材	第29回	緑、紫
第15回	服の素材	第30回	緑、紫

成績評価 平常点と年度末試験

テキスト アリソン・ルーリエ著『*The Language of Clothes*』※このテキストは現在絶版なので、こちらで用意する。

オフィス・アワー 授業終了後、他適宜

対象専門・学年：全専門／1～2年次生、専攻生
 開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 ドイツ語初級文法の基礎のルールを、しっかり習得することを目指す。あわせて、音楽に関係したドイツ語の語彙を増やしたい。また、授業を通じて、音楽を学ぶ上で必ず出合うドイツ、オーストリアなどのドイツ語圏の文化の一端に触れることが出来ればよいと考える。

授業計画

第1～3回	1課	ドイツ語のABCと発音
第4～6回	2課	動詞の現在人称変化
第7～8回	3課	冠詞と名詞
第9～10回	4課	名詞の複数
第11～12回	5課	人称代名詞・前置詞
第13～14回	6課	話法の助動詞 分離動詞
第15回		まとめ
第16～18回	7課	動詞の三基本形 過去・完了
第19～21回	8課	再帰動詞・zu不定詞
第22～23回	9課	形容詞
第24～25回	10課	関係代名詞 指示代名詞
第26～27回	11課	受動・分詞の用法
第28～29回	12課	接続法
第30回		まとめ

成績評価 評価の基準となるのは主に学年末試験であるが、前期末試験や小テストの結果、提出物の提出状況や、授業における平常点などを加味して総合的に評価する。

テキスト 信岡資生著『あすのドイツ文法』（第三書房）

オフィス・アワー 簡単な質問・相談等については授業終了後に、相当の時間を要する質問・相談については、個々に時間を打ち合わせた上で受け付けたい。

対象専門・学年：全専門／1～2年次生、専攻生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 イタリア語を初めて学ぶ人を対象にする。イタリア語で初歩的なコミュニケーションを図ることを目標に、基本的な文法や単語を学ぶ。1年間の授業で、日常生活に必要なイタリア語の基本を理解できるようにする。

授業計画 主に教科書の構成に沿って授業を進める。年間計画は以下のとおりだが、授業の進行状況に応じて変更することもある。

第 1 回 文字の読み方

第 2～3 回 名詞、形容詞

第 4～6 回 動詞essere、動詞avere

第 7～9 回 規則動詞-are

第10～12回 規則動詞-ere、規則動詞-ire

第13～16回 動詞piacere

第 17 回 再帰動詞

第18～20回 不規則動詞

第21～23回 補助動詞

第24～26回 近過去

第27～30回 半過去

成績評価 教科書の各課終了時に復習のための小テストを実施する。小テストの点数、授業に取り組む態度をもとに総合的に成績評価を行う。

テキスト 遠藤礼子『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら』（白水社）

オフィス・アワー 授業に関する質問は授業終了後に受け付ける。

保健体育講義「健康な生活を考える」

大学准教授 上羅 廣

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：1単位 開講形態：講義

授業目標 身体科学としてこの講義を位置づけ、身体の健康を「食」、「休」、「運動」との関連の中で考えていきたい。学生にはこの講義を通して、健康づくりの科学的基礎を理解し、その実践方法も身に付けるようにしてほしい。

授業計画

第1回 保健体育とは何か

第2回 人の健康と身体

第3回 「食」と健康

第4回 「休」と健康

第5回 「運動」と健康

第6回 身体と社会生活

第7回 スポーツをめぐる諸問題

第8回 まとめ

成績評価 試験、授業態度によって総合的に評価する。

テキスト 使用せず。

オフィス・アワー 月（前期）10：00～14：30 水 14：30～16：00 木 10：00～14：30
Eメールも可

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：前期 単位数：1単位 開講形態：実技

授業目標 現代生活の中で、身体の健康の維持・増進の基本的な方法を実践を通して理解し、身に付けることは大切である。さらに、生活をリズムカルで潤いのあるものにしていくために、スポーツなど多様な運動文化を楽しむ能力を身に付けることも大切である。これらの観点から、授業を下記の通り構成する。

授業計画

第1回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第2回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第3回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第4回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第5回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第6回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第7回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択
第8回	ストレッチ、筋力トレーニング・有酸素運動、スポーツ他選択

成績評価 成績については、授業態度、評価ポイントなどを加味して総合的に評価する。

テキスト 使用せず。

オフィス・アワー 月（前期）10：00～14：30 水 14：30～16：00 木 10：00～14：30
Eメールも可

作編曲法

講師 三宅康弘

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標

楽曲分析Ⅰで学んだことをふまえ、特に変奏曲とフーガを中心に分析を行う。また、変奏曲の作曲と、ピアノ連弾（もしくは独奏楽器＋ピアノ）への編曲にも取り組み、音出しをする。簡単な作曲や編曲ができるようになることを目標とする。

演奏家にとって、自ら作編曲する知識と経験は必要である。なぜなら、作曲家の創造行為がより身近なものとして実感でき、楽譜の読みが深まるからだ。また教育現場においても、子どもの発達段階や、状況に応じた楽譜を作る能力が、求められているからだ。

授業計画

第1回 変奏曲(1)	第16回 ピアノ連弾曲(1)、フーガ(1)
第2回 変奏曲(2)	第17回 ピアノ連弾曲(2)、フーガ(2)
第3回 変奏曲(3)	第18回 ピアノ連弾曲(3)、フーガ(3)
第4回 変奏曲(4)	第19回 ピアノ連弾曲(4)、フーガ(4)
第5回 変奏曲(5)	第20回 ピアノ連弾曲(5)、フーガ(5)
第6回 変奏曲(6)	第21回 ピアノ連弾曲(6)、フーガ(6)
第7回 変奏曲(7)	第22回 ピアノ連弾曲(7)、フーガ(7)
第8回 変奏曲(8)	第23回 独奏楽器＋ピアノ(1)、フーガ(8)
第9回 変奏曲(9)	第24回 独奏楽器＋ピアノ(2)、フーガ(9)
第10回 変奏曲(10)	第25回 独奏楽器＋ピアノ(3)、フーガ(10)
第11回 変奏曲(11)	第26回 独奏楽器＋ピアノ(4)、フーガ(11)
第12回 変奏曲(12)	第27回 独奏楽器＋ピアノ(5)、フーガ(12)
第13回 変奏曲(13)	第28回 独奏楽器＋ピアノ(6)、フーガ(13)
第14回 授業内作品発表	第29回 授業内作品発表
第15回 授業内作品発表	第30回 授業内作品発表

成績評価

授業内発表、作品提出（前期：変奏曲の作曲、後期：ピアノ連弾曲〈独奏楽器＋ピアノ〉の編曲）、授業態度

テキスト

適宜プリント配布

〈参考図書〉

石桁真礼生著『新版 楽式論』（音楽之友社）

浦田健次郎編著『新総合音楽講座4 楽式』（財団法人ヤマハ音楽振興会）

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 グレゴリオ聖歌から現代音楽に至るまでの西洋音楽の歴史を、音楽を視聴しながら概説する。同時代の美術についても簡単に紹介する。スコアを見ながら曲を聴く学習も試みる。さらに授業中に演奏も課する。また日本の伝統音楽についても視聴する。

試験は前後期それぞれ実施し、音楽を聴いて作曲された時代や曲の形式を答えるといった内容である。

授業計画

第1回	時代区分。中世の楽曲	第16回	日本の伝統音楽
第2回	図書館ガイダンス	第17回	日本の伝統音楽
第3回	中世の楽曲	第18回	日本の伝統音楽
第4回	ルネッサンスの楽曲	第19回	前期の復習。中世の声楽曲
第5回	ルネッサンスの楽曲	第20回	中世の声楽曲
第6回	バロックの楽曲	第21回	ルネッサンスの声楽曲
第7回	バロックの楽曲	第22回	ルネッサンスの声楽曲
第8回	古典派の楽曲	第23回	バロックの声楽曲
第9回	古典派の楽曲	第24回	バロックの声楽曲
第10回	ロマン派の楽曲	第25回	古典派の声楽曲
第11回	現代の楽曲	第26回	古典派の声楽曲
第12回	現代の楽曲	第27回	ロマン派の声楽曲
第13回	武満徹について	第28回	ロマン派の声楽曲
第14回	楽器展示室見学	第29回	現代の声楽曲
第15回	まとめ	第30回	まとめ

成績評価 前後期に実施する試験の成績で評価する。試験が半分まで出来なかった学生にはレポートを課する。また授業への参加状況、取り組む態度も考慮する。

テキスト ジョン・オール／カール・バリシュ共著『グレゴリオ聖歌からバッハまで』（音楽之友社）
〈参考図書〉

柴田南雄著『音楽史 印象派以後』（音楽之友社）

オフィス・アワー 授業前と終了後に教室にて。また終了後に1308室にても可。

備考 第1回の授業からテキストを持参すること。また授業の進行が早いので、そのつどテキストを復習するよう心掛けてほしい。

和声法Ⅰa

講師 佐藤亮子

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 和音は単語に、和声は文章に例えられる。私達が相手に自分の意思を明確に伝えたいと思う時、選び抜いた単語を丁寧に文章として配列するのではないだろうか。同様に作曲家も、音楽によって伝えたい意図を計算しつくした和音や和声を用いて提示してくれている。それを十分に理解し演奏に役立てる事を目標としながら実習を進めていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	前期の復習
第 2 回	基礎知識の復習	第 17 回	第8章
第 3 回	基礎知識の復習と第1章	第18～20回	第9章
第 4 回	第1章	第21～22回	第10章
第5～6回	第2章	第23～24回	第11章
第 7 回	第3章	第25～28回	第12章
第8～9回	第4章	第29～30回	まとめ
第10～11回	第5章		
第 12 回	第6章		
第 13 回	第7章		
第14～15回	まとめ		

成績評価 各学期末試験と平常点による。中でも授業態度と課題の提出は大きく関係する。

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社）

オフィス・アワー 火（授業終了後）

備考 授業前後の予習復習をするなど自主的に取り組む姿勢が大切。

和声法Ⅰb

講師 三宅康弘

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 音楽家にとって大切な和声感を身につけるため、4声体による和声法を学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	基礎知識の復習	第17回	第8章
第3回	基礎知識の復習と第1章	第18回	第9章
第4回	第1章	第19回	第9章
第5回	第2章	第20回	第9章
第6回	第2章	第21回	第10章
第7回	第3章	第22回	第10章
第8回	第4章	第23回	第11章
第9回	第4章	第24回	第11章
第10回	第5章	第25回	第12章
第11回	第5章	第26回	第12章
第12回	第6章	第27回	第12章
第13回	第7章	第28回	第12章
第14回	まとめ	第29回	まとめ
第15回	まとめ	第30回	まとめ

成績評価 試験、授業態度

テキスト 伊藤謙一郎、柳田謙一著『学生のための和声の要点』（サーベル社）

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

和声法IIa

講師 佐藤亮子

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 和声法 I で学習した内容を振り返った後、さらに高度な学習へと発展する。曲例から和声の使われ方を分析しながら、借用和音や転位音を含む課題の実習を目指す。より複雑化するため、実力を落とさない目的で宿題として課題を出す。

授業計画

第 1 ～ 7 回 1年次の復習

第 8 ～ 9 回 第13章

第10～13回 第14章

第14～15回 まとめ

第 16 回 前期の復習と第14章

第17～20回 第14章

第21～28回 第18章

第29～30回 まとめ

成績評価 各学期末試験と平常点による。中でも授業態度と課題の提出は大きく関係する。

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社）
1年次のものを続けて使用。

オフィス・アワー 火（授業終了後）

備考 授業前後の予習復習をするなど自主的に取り組む姿勢が大切。

和声法Ⅱb

講師 三宅康弘

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 和声法Iで学習した内容を振り返り、さらに高度な学習へと発展する。最終的に転位音を含むソプラノ課題まで扱う。

授業計画

第1回	1年次の復習(1)	第16回	前期の復習
第2回	1年次の復習(2)	第17回	第13章
第3回	1年次の復習(3)	第18回	第13章
第4回	1年次の復習(4)	第19回	第13章
第5回	1年次の復習(5)	第20回	第18章
第6回	1年次の復習(6)	第21回	第18章
第7回	1年次の復習(7)	第22回	第18章
第8回	1年次の復習(8)	第23回	第18章
第9回	1年次の復習(9)	第24回	第18章
第10回	1年次の復習(10)	第25回	第18章
第11回	1年次の復習(11)	第26回	第18章
第12回	1年次の復習(12)	第27回	第18章
第13回	1年次の復習(13)	第28回	第18章
第14回	まとめ	第29回	まとめ
第15回	まとめ	第30回	まとめ

成績評価 試験、授業態度

テキスト 伊藤謙一郎、柳田謙一著『学生のための和声の要点』（サーベル社）

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

楽曲分析Ⅰ

講師 三宅康弘

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 基本的な形式より始め、実作品を用いてさまざまな形式を分析する。特に重要な2部形式、3部形式、ロンド形式、ソナタ形式については受講生自らが分析し、授業内発表する。また、2部形式とソナタ形式の作曲にも取り組み、音出しをする。簡単な形式の曲を分析できるようになることを目標とする。

楽曲分析とは、作品の構造や語法などを調べ、それによって作曲家の意図を理解することである。この作業は演奏家にとって必要不可欠なものである。なぜなら演奏とは、書かれた音符をただ単に物理的な音に変換する行為ではなく、生きた音楽言語として再創造する行為だからだ。

授業計画

	学生による分析	講師による分析		学生による分析	講師による分析
第1回	ブルクミュラー(1)	楽曲分析とは	第16回	ソナチネ(1)	ソナタ形式(1)
第2回	ブルクミュラー(2)	2部形式	第17回	ソナチネ(2)	ソナタ形式(2)
第3回	ブルクミュラー(3)	3部形式	第18回	ソナチネ(3)	ソナタ形式(3)
第4回	ブルクミュラー(4)	複合3部形式	第19回	ソナチネ(4)	ソナタ形式(4)
第5回	ブルクミュラー(5)	ロンド形式(小ロンド)	第20回	ソナチネ(5)	ソナタ形式(5)
第6回	ブルクミュラー(6)	ロンド形式(大ロンド)	第21回	ソナチネ(6)	ソナタ形式(6)
第7回	ブルクミュラー(7)	ロンドソナタ形式	第22回	ソナチネ(7)	ソナタ形式(7)
第8回	ブルクミュラー(8)	2部形式の作曲法(1)	第23回	ソナチネ(8)	ソナタ形式の作曲法(1)
第9回	ブルクミュラー(9)	2部形式の作曲法(2)	第24回	ソナチネ(9)	ソナタ形式の作曲法(2)
第10回	ブルクミュラー(10)	2部形式の作曲法(3)	第25回	ソナチネ(10)	ソナタ形式の作曲法(3)
第11回	ブルクミュラー(11)	2部形式の作曲法(4)	第26回	ソナチネ(11)	ソナタ形式の作曲法(4)
第12回	ブルクミュラー(12)	2部形式の作曲法(5)	第27回	ソナチネ(12)	ソナタ形式の作曲法(5)
第13回	ブルクミュラー(13)	2部形式の作曲法(6)	第28回	ソナチネ(13)	ソナタ形式の作曲法(6)
第14回	授業内作品発表		第29回	授業内作品発表	
第15回	授業内作品発表		第30回	授業内作品発表	

成績評価 授業内発表、作品提出（前期：2部形式の作曲、後期：ソナタ形式の作曲）、授業態度

テキスト ブルクミュラー『25の練習曲』（出版社自由）

『ソナチネアルバム1』（出版社自由）

〈参考図書〉

石桁真礼生著『新版 楽式論』（音楽之友社）

浦田健次郎編著『新総合音楽講座4 楽式』（財団法人ヤマハ音楽振興会）

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

ソルフェージュa・b・c

音楽基礎科目主任 講師 三宅康弘／教授 藤井孝子

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 兼氏規雄

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 ソルフェージュとは「音楽能力の総合的な基礎訓練」である。そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、暗記）、視唱など、多様な活動を通して音楽能力を向上させることを目標とする。

授業計画 第1回目の授業にてクラス分けのテストを行う。

第1回	ソルフェージュ演習(1)	第16回	ソルフェージュ演習(15)
第2回	ソルフェージュ演習(2)	第17回	ソルフェージュ演習(16)
第3回	ソルフェージュ演習(3)	第18回	ソルフェージュ演習(17)
第4回	ソルフェージュ演習(4)	第19回	ソルフェージュ演習(18)
第5回	ソルフェージュ演習(5)	第20回	ソルフェージュ演習(19)
第6回	ソルフェージュ演習(6)	第21回	ソルフェージュ演習(20)
第7回	ソルフェージュ演習(7)	第22回	ソルフェージュ演習(21)
第8回	ソルフェージュ演習(8)	第23回	ソルフェージュ演習(22)
第9回	ソルフェージュ演習(9)	第24回	ソルフェージュ演習(23)
第10回	ソルフェージュ演習(10)	第25回	ソルフェージュ演習(24)
第11回	ソルフェージュ演習(11)	第26回	ソルフェージュ演習(25)
第12回	ソルフェージュ演習(12)	第27回	ソルフェージュ演習(26)
第13回	ソルフェージュ演習(13)	第28回	ソルフェージュ演習(27)
第14回	ソルフェージュ演習(14)	第29回	ソルフェージュ演習(28)
第15回	まとめ	第30回	まとめ

成績評価 試験、授業態度

テキスト 五線紙
その他の教材は授業内指示

オフィス・アワー 授業終了後教室にて

対象専門・学年：【Ⅰ】全専門／1年次生

【教育職員免許状取得に関わる科目】※音楽療法士養成に関する科目
【Ⅱ】全専門／2年次生、専攻生

※音楽療法士養成に関する科目

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 様々な年代やジャンルの作品に触れ様式感やアンサンブル能力を高める。今学期は様々なリズムについて取り組む。一人一人音楽の表現者として必要な自己解放に挑戦し、その事が個々の専門に役立ち、生かせる事を目指す。

声楽専門、そして副科声楽で学んでいる学生は、レッスンで学んでいる事の実践の場として声の成長と共に表現の可能性を求めてほしい。

授業計画

第1回	実技実習(1) 声種分け	第16回	実技実習(16)
第2回	実技実習(2)	第17回	実技実習(17)
第3回	実技実習(3)	第18回	実技実習(18)
第4回	実技実習(4)	第19回	実技実習(19)
第5回	実技実習(5)	第20回	実技実習(20)
第6回	実技実習(6)	第21回	実技実習(21)
第7回	実技実習(7)	第22回	実技実習(22)
第8回	実技実習(8)	第23回	実技実習(23)
第9回	実技実習(9)	第24回	実技実習(24)
第10回	実技実習(10)	第25回	実技実習(25)
第11回	実技実習(11)	第26回	実技実習(26)
第12回	実技実習(12)	第27回	実技実習(27)
第13回	実技実習(13)	第28回	実技実習(28)
第14回	実技実習(14)	第29回	実技実習(29)
第15回	実技実習(15)	第30回	実技実習(30)

定期演奏会や演奏会に向け授業を進める。

授業で取り上げる楽曲名

Bob Chilcott 作曲 A Little Jazz Mass

Leroy Anderson 作曲 Plink Plank Plunk 他

成績評価 年に数回授業で取り組む曲への理解の為にレポートを提出。及び授業態度。

テキスト Bob Chilcott 作曲：«A Little Jazz Mass» for upper voice SSA, piano, and optional bass and drum kit (OXFORD出版)

オフィス・アワー 授業終了後教室にて。

対象専門・学年：【I】器楽専門 / 1年次生 【II】器楽専門 / 2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 人とアンサンブルを演奏する場合における技術的なこと（和音におけるピッチの取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わうようにする。

授業計画

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

- ・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。
- ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。
- ・大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。

成績評価 授業態度
ミニコンサート時の演奏内容

テキスト 特になし。

オフィス・アワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標

机上の理論によってではなく、鍵盤上での実習を通して和声進行を身につける。
 さまざまな調の音階とカデンツなどを反復練習し、Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の基本形から転回形の活用を学ぶ。また、メロディーに伴奏付けをし、さらに拍子やテンポにあわせてどのような伴奏形態が適切であるかを考える。
 その他に、初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなども体験する。

授業計画

各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおきフレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。

第1回	長調の主要三和音について	第16回	初見演奏・弾き歌いについて
第2回	カデンツの練習	第17回	初見演奏・弾き歌い練習①
第3回	終止形について	第18回	初見演奏・弾き歌い練習②
第4回	メロディー奏	第19回	初見演奏・弾き歌い練習③
第5回	メロディーに和音をつける	第20回	初見演奏・弾き歌い練習④
第6回	リズム伴奏を考える	第21回	移調奏①
第7回	課題実習	第22回	移調奏②
第8回	課題実習	第23回	コードネーム①
第9回	短音階と短調の主要三和音	第24回	コードネーム②
第10回	短調のメロディーに和音付け	第25回	課題実習
第11回	課題実習	第26回	課題実習
第12回	課題実習	第27回	課題実習
第13回	課題実習	第28回	カウンターライン①
第14回	リズム伴奏を発表する	第29回	カウンターライン②
第15回	前期まとめ	第30回	まとめ

成績評価

試験、提出物、授業態度などの平常点による総合評価。

テキスト

授業時にプリントを配布する。

オフィス・アワー 授業終了後

備考

欠席した週に配ったプリントは、翌週に再度配らないので各自で対応して欲しい。

対象専門・学年：ピアノ・声楽専門／2年次生、専攻生
開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 演奏においてピアノ伴奏の担う役割は多岐にわたる。この授業では主に声楽作品（歌曲、合唱曲）を取り上げ①詩、言葉の内容がピアノ伴奏パートにどのように反映されているかを把握する②歌い手の呼吸、表現に相応しい伴奏法を考えるという二つの観点からのアプローチを学習し、実際の演奏に役立ててもらいたい。

授業計画

第1回	伴奏者の役目
第2回	器楽伴奏概論
第3回	声楽伴奏概論
第4回	合唱伴奏概論
第5回	歌曲研究（日本歌曲、小学唱歌）
第6回	〃
第7回	歌曲研究（イタリア歌曲）
第8回	歌曲研究（モーツァルト、シューベルト歌曲）
第9回	〃
第10回	歌曲研究（シューマン、ブラームス歌曲）
第11回	〃
第12回	オペラアリア研究
第13回	合唱曲研究
第14回	〃
第15回	まとめ

成績評価 授業への取り組み方による。

テキスト 授業内で指示する。

オフィス・アワー 授業終了後、教室で行う。

対象専門・学年：ピアノ専門/2年次生、専攻生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 ピアノ教授法を取り上げる。「ピアノを弾く楽しさ」を伝える為に必要な、年齢や進度に応じた指導法と教材の選び方などの知識の総合的理解とその技術の習得を目標とする。

授業計画

第1回	幼児の特徴とその対応
第2回	導入
第3回	導入の教材
第4回	ビデオ「4歳児の初めてのレッスン」
第5回	初級①
第6回	初級②
第7回	初級の教材
第8回	バーナム①
第9回	バーナム②
第10回	バーナム③
第11回	ツェルニー30番
第12回	バッハ インヴェンション
第13回	ソナチネ他
第14回	兄弟の扱い方とお母さんとの対応
第15回	大人の初心者への指導法

成績評価 受講態度と、提出させた学生のノートの総合評価

テキスト なし

オフィス・アワー 講義終了後、講義室

対象専門・学年：ピアノ専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 1台のピアノを2人で演奏する連弾で、敏感な耳を養い、呼吸法をあわせて習得する。目標は、アンサンブルの基本である互いの音・リズム・ハーモニー・フレーズを感じる能力を醸成することである。

授業計画 実技実習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

- ・実技実習(1)～(20)においては、ピアノソロ曲で呼吸法・音のバランス感を習得する。
- ・実技実習(21)～(30)においては、担当教授者と簡単なピアノ曲を連弾し、担当教授者の奏でる音や呼吸を感じとり、フレーズ感・音のバランスをとる力を身につける。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィス・アワー 1110研究室（10：00～17：00） 月曜日・水曜日・金曜日

対象専門・学年：ピアノ専門/2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 連弾と違い2台のピアノという離れた状態の中、互いの息づかいを感じる力を習得する。2台ピアノを演奏することによる音楽の豊かな拡がりを感じさせ、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。

授業計画 実技実習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

- ・2台ピアノの作品で、自分自身の音楽表現を互いにぶつけあいながら、一体感を得る音楽的な喜びを感じられるようにする。
- ・石橋メモリアルホールでの学内演奏会を一般公開で行い、2台ピアノならではの音の響きを感じることを学ぶ。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(6)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(7)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(8)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(9)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(10)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(11)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(12)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(13)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(14)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(15)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(16)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(17)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(18)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(19)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(20)

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィス・アワー 1110研究室（10：00～17：00） 月曜日・水曜日・金曜日

対象専門・学年：【Ⅰ】フルート専門／1年次生、専攻生 【Ⅱ】フルート専門／2年次生、専攻生
開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。特に日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会(イベント)の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画

第1回	特殊楽器の紹介(試奏)①	第16回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ⑥
第2回	特殊楽器の紹介(試奏)②	第17回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ⑦
第3回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ①	第18回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ⑧
第4回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ②	第19回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ⑨
第5回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ③	第20回	コンサート(場所、日時は未定)
第6回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ④	第21回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ①
第7回	バロック・古典時代の曲を演奏①	第22回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ②
第8回	バロック・古典時代の曲を演奏②	第23回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ③
第9回	バロック・古典時代の曲を演奏③	第24回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ④
第10回	バロック・古典時代の曲を演奏④	第25回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ⑤
第11回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ①	第26回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ⑥
第12回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ②	第27回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ⑦
第13回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ③	第28回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ⑧
第14回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ④	第29回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ⑨
第15回	秋のコンサートに向け曲の仕上げ⑤	第30回	発表会

- ・フルートの歴史について、楽器、作品(作曲家)、演奏(演奏家)等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。
- ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。
- ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。

成績評価 授業態度
コンサート時の演奏内容

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』

オフィス・アワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

対象専門・学年：【Ⅰ】声楽専門／1年次生 【Ⅱ】声楽専門／2年次生、専攻生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 履修者の演奏を通じ、オペラの演技付き重唱曲、合唱曲、重唱曲に接することによって、個々の作曲家、作品の特質に触れ、その流れを体感出来る様試みる。

授業計画

第1回	オペラの歴史について	第16回	重唱曲及び合唱曲の復習
第2回	オペラに必要な姿勢と発声法	第17回	オペラの重唱曲の演技つけ①
第3回	ソロを歌う場合の姿勢と発声法	第18回	オペラの重唱曲の演技つけ②
第4回	演技の基礎①	第19回	オペラの重唱曲の演技つけ③
第5回	演技の基礎②	第20回	演技をしながら重唱曲を歌う①
第6回	演技の基礎③	第21回	演技をしながら重唱曲を歌う②
第7回	演技の基礎的動作及び動き方①	第22回	演技をしながら重唱曲を歌う③
第8回	演技の基本的動作及び動き方②	第23回	演技をともなう重唱曲総合練習①
第9回	様々な役による動作及び動き方	第24回	演技をともなう重唱曲総合練習②
第10回	視覚による演技の見え方	第25回	演技をともなう重唱曲総合練習③
第11回	視覚を利用しての演技の仕方	第26回	演技をともなう重唱曲総合練習④
第12回	重唱曲及び合唱曲の練習①	第27回	演技をともなう重唱曲総合練習⑤
第13回	重唱曲及び合唱曲の練習②	第28回	試験に向けて総合練習及び復習①
第14回	重唱曲及び合唱曲の練習③	第29回	試験に向けて総合練習及び復習②
第15回	重唱曲及び合唱曲の練習④	第30回	オペラ重唱曲試験

成績評価 授業態度、演奏などから総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィス・アワー 授業終了後、教室にて。

対象専門・学年：音楽専門／2年次生、専攻生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 日本歌曲は、その始まりから継承、発展の流れを、楽曲を通して学んでいく。CD鑑賞しながら解釈し、演習の中で、日本語が持つ語感の美しさから、繊細な感性と感覚を磨き、自然で美しい歌唱表現の習得を目標とする。

外国歌曲は、ドイツリート の 成立と変遷を学びながら、詩と音楽の密接な関わりや、演奏解釈等に対する理解を深める。

オペラにおいては、最新のDVDを用いて、演奏のテクニックだけでなく、様々な表現技法を研究し、オペラへの関心を深めることが目的である。

授業計画

第1回 日本歌曲のはじまり	第16回 ドイツリートのはじまり
第2回 日本歌曲の継承と発展	第17回 シューベルト「冬の旅」①
第3回 瀧廉太郎作品①	第18回 シューベルト「冬の旅」②
第4回 瀧廉太郎作品②	第19回 シューベルト「冬の旅」③
第5回 童謡・唱歌のはじまり	第20回 シューマン「女の愛と生涯」①
第6回 童謡・唱歌の継承	第21回 シューマン「女の愛と生涯」②
第7回 童謡・唱歌の継承と発展	第22回 シューマン「女の愛と生涯」③
第8回 本居長世、中山晋平、小松耕輔作品①	第23回 シューマン「詩人の恋」①
第9回 本居長世、中山晋平、小松耕輔作品②	第24回 シューマン「詩人の恋」②
第10回 山田耕筰、信時潔作品①	第25回 オペラ「フィガロの結婚」①
第11回 山田耕筰、信時潔作品②	第26回 オペラ「フィガロの結婚」②
第12回 成田為三、弘田龍太郎、橋本国彦作品①	第27回 オペラ「フィガロの結婚」③
第13回 成田為三、弘田龍太郎、橋本国彦作品②	第28回 オペラ「マノン」①
第14回 平井康三郎、中田喜直作品①	第29回 オペラ「マノン」②
第15回 平井康三郎、中田喜直作品②	第30回 まとめ

成績評価 授業への取り組み、レポート等、総合的に評価する。

テキスト 適宜、参考資料と楽譜を配布する。

オフィス・アワー 1201研究室（10：00～16：30）

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 世界には、われわれが思いもかけなかったような音の体系を「音楽」とみなしていたり、そこに美しさを見出していたりする。世界のさまざまな音楽の「かたち」を知ることは、その地に息づく価値観の多様性を知るとともに、ヒトの音楽行動の諸相を知ることにもつながる。本講義では、各地域の音楽文化の特質や音楽構造にかんする基礎知識を身につけるとともに、そこに反映される社会や歴史、音の体系をトータルな観点から学んでゆくことを目指す。

授業計画 世界各地の音楽文化を概観し、その特質を、様式、楽器、社会的機能、歴史等の観点から説明する。また音楽と、それをとりまく環境、政治、宗教などとの関連にも目を向ける。講義では、これら多様な音楽文化を総合的観点から理解するために、楽器の分類法や音の視覚化等の問題についてもふれてゆく。視聴覚資料を多用しながら、場合によっては実演を試みながら、各音楽文化の共通性や差異性を体験的に理解してゆくことを目標とする。

第1回 導入（「民族音楽学」とは？）

第2回 世界の楽器と分類法

第3回 ヨーロッパ(1)

第4回 ヨーロッパ(2)

第5回 西アジア(1)

第6回 西アジア(2)

第7回 南アジア

第8回 東南アジア

第9回 東アジア(1)

第10回 東アジア(2)

第11回 オセアニア

第12回 アフリカ

第13回 アメリカ大陸(1)

第14回 アメリカ大陸(2)

第15回 総括

成績評価 授業態度、レポート、試験

テキスト 柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社 1999）。
その他、参考文献については授業中に適宜、紹介する。

オフィス・アワー 講義終了後、随時受け付ける。

備考 視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 楽曲分析Iで学んだことをふまえ、さまざまな形式の曲を受講生自らが分析する。多様な曲を分析できるようになり、時代ごとに異なる作曲様式についてまで理解を深めることを目標とする。

授業計画 過去には、バッハ「インヴェンション」「シンフォニア」、モーツァルト「ピアノソナタ」、ベートーヴェン「ピアノソナタ」、ショパン「マズルカ」、シューマン「子供の情景」などを分析してきたが、今年度何を分析するかは、受講生と相談しながら決めていく。また、受講生の専攻楽器の曲(卒業演奏作品に関するものが望ましい)を分析し、授業内発表する。

	学生による分析	講師による分析
第1回	主にバロック、古典派の作品(1)	さまざまな時代の作品(1)
第2回	主にバロック、古典派の作品(2)	さまざまな時代の作品(2)
第3回	主にバロック、古典派の作品(3)	さまざまな時代の作品(3)
第4回	主にバロック、古典派の作品(4)	さまざまな時代の作品(4)
第5回	主にバロック、古典派の作品(5)	さまざまな時代の作品(5)
第6回	主にバロック、古典派の作品(6)	さまざまな時代の作品(6)
第7回	主にバロック、古典派の作品(7)	さまざまな時代の作品(7)
第8回	主にバロック、古典派の作品(8)	さまざまな時代の作品(8)
第9回	主にバロック、古典派の作品(9)	さまざまな時代の作品(9)
第10回	主にバロック、古典派の作品(10)	さまざまな時代の作品(10)
第11回	主にバロック、古典派の作品(11)	さまざまな時代の作品(11)
第12回	主にバロック、古典派の作品(12)	さまざまな時代の作品(12)
第13回	主にバロック、古典派の作品(13)	さまざまな時代の作品(13)
第14回	主にバロック、古典派の作品(14)	さまざまな時代の作品(14)
第15回	主にバロック、古典派の作品(15)	さまざまな時代の作品(15)
第16回	主にロマン派、近現代の作品(1)	さまざまな時代の作品(16)
第17回	主にロマン派、近現代の作品(2)	さまざまな時代の作品(17)
第18回	主にロマン派、近現代の作品(3)	さまざまな時代の作品(18)
第19回	主にロマン派、近現代の作品(4)	さまざまな時代の作品(19)
第20回	主にロマン派、近現代の作品(5)	さまざまな時代の作品(20)
第21回	主にロマン派、近現代の作品(6)	さまざまな時代の作品(21)
第22回	主にロマン派、近現代の作品(7)	さまざまな時代の作品(22)
第23回	主にロマン派、近現代の作品(8)	さまざまな時代の作品(23)
第24回	専攻楽器の作品(1)	さまざまな時代の作品(24)
第25回	専攻楽器の作品(2)	さまざまな時代の作品(25)
第26回	専攻楽器の作品(3)	さまざまな時代の作品(26)
第27回	専攻楽器の作品(4)	さまざまな時代の作品(27)
第28回	専攻楽器の作品(5)	さまざまな時代の作品(28)
第29回	専攻楽器の作品(6)	さまざまな時代の作品(29)
第30回	専攻楽器の作品(7)	さまざまな時代の作品(30)

成績評価 授業内発表、レポート提出（前期：専攻楽器の作品の分析）、授業態度

テキスト 適宜プリント配布

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

鍵盤和声II

講師 三沢庸子

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 鍵盤上で様々なジャンルの曲を用いての演奏実習を反復して行う。徐々に和音の種類を増やして、伴奏づけ・移調奏・弾きうたい・初見奏、さらに主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作ることも試みる。授業目標は、実際の楽曲の中に基本的な和声進行を感じとる [聴く力] を養うことである。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	前期の復習
第2回	音階とカデンツ 即興演奏	第17回	借用和音を用いての伴奏づけ
第3回	旋律・和声・リズム 移調奏	第18回	伴奏づけ 移調奏
第4回	伴奏形について 初見奏	第19回	主題を基に変奏曲をつくる
第5回	数字付低音による和音付け	第20回	モチーフを基に小曲をつくる
第6回	和音記号による伴奏づけ 弾きうたい	第21回	移調奏 弾きうたい
第7回	コードネームによる和音付け	第22回	初見奏 伴奏づけ
第8回	伴奏づけ 移調奏	第23回	主題を基に変奏曲をつくる
第9回	伴奏譜にメロディーをつける	第24回	モチーフを基に小曲をつくる
第10回	与えられた旋律に伴奏づけ	第25回	伴奏づけ 移調奏
第11回	モチーフを基にメロディーを作る	第26回	主題を基に変奏曲をつくる
第12回	伴奏形を変えて変奏曲をつくる	第27回	モチーフを基に小曲をつくる
第13回	非和声音を用いての伴奏づけ①	第28回	総合演習①
第14回	非和声音を用いての伴奏づけ②	第29回	総合演習②
第15回	伴奏づけ 移調奏	第30回	まとめ

成績評価 授業態度などの平常点と試験から総合的に評価する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィス・アワー 授業終了後教室にて。

備考 授業計画は概ね上記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題に取り組みたい。

対象専門・学年：全専門／1年次生、専攻生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 音楽療養は、病氣や障害を持った子ども、成人、高齢者などに対して行われ、近年は社会的な関心が高まっている。また、医学・福祉・福祉等と連携して新しい学問・実践の領域として発展が期待されている。

この時間では、音楽療法とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、音楽療法に必要な様々な理論、セッションの流れ等について学ぶ。

授業計画 授業は、音楽療法の実践に役立つ授業にするために、知識だけでなく、実践に生かすにはどうしたらいいか考えながら進めていく。

第1回 音楽療法とは何か①

第2回 音楽療法とは何か②

第3回 受動的音楽療法と能動的音楽療法①

第4回 受動的音楽療法と能動的音楽療法②

第5回 音楽療法の効果について①

第6回 音楽療法の効果について②

第7回 音楽療法の歴史①

第8回 音楽療法の歴史②

第9回 音と音楽とところとからだ①

第10回 音と音楽とところとからだ②

第11回 音楽療法のさまざまなアプローチ①

第12回 音楽療法のさまざまなアプローチ②

第13回 音楽療法が問いかけること①

第14回 音楽療法が問いかけること②

第15回 試験

成績評価 クラス内での積極性、協調性などの授業態度、及び筆記試験により総合的に評価する。

テキスト 二俣泉著『音楽療法をまなぶ 第2版』（音楽療法研究会）

オフィス・アワー 学生からの授業内容及び音楽療法に関する質問・相談は、授業終了後教室またはEメールで対応する。

音楽療法各論Ⅰ

講師 二俣 泉

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 音楽療法には多くの対象領域があるが、児童を対象とした実践は、日本においても諸外国においても、音楽療法の主要な領域のひとつであると言える。この講義では、児童の音楽療法の理論と実践の手順、また臨床上の諸技術について体系的に学んでいく。授業目標は、発達障害の定義と分類、児童の音楽療法の代表的な3つのアプローチ（応用行動分析学、ノードフ・ロビンズ音楽療法、発達論）の特徴、個々の子どものニーズに合致した介入手続きの選択方法を把握することである。

授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 音楽を用いた癒しの伝統・障害児への教育の歴史について |
| 第2回 | 発達障害の概要～知的障害・自閉症・学習障害・注意欠陥多動性障害～ |
| 第3回 | 発達障害児者への音楽療法の設計～アセスメントから実践・評価までの流れ～ |
| 第4回 | アセスメントについて～検査・チェックリスト・インタビュー・行動観察・その他～ |
| 第5回 | 目標と方法について |
| 第6回 | 発達障害児者への音楽療法における活動(1)あいさつ・楽器活動 |
| 第7回 | 発達障害児者への音楽療法における活動(2)身体運動・声を用いた活動 |
| 第8回 | 応用行動分析学にもとづく音楽療法(1) |
| 第9回 | 応用行動分析学にもとづく音楽療法(2) |
| 第10回 | ノードフ・ロビンズ音楽療法(1) |
| 第11回 | ノードフ・ロビンズ音楽療法(2) |
| 第12回 | 発達論にもとづく音楽療法(1) |
| 第13回 | 発達論にもとづく音楽療法(2) |
| 第14回 | 折衷主義 |
| 第15回 | コミュニティ音楽療法・徹底的音楽主義にもとづく音楽療法 |

成績評価 提出された課題（レポートもしくは音楽療法実践のための楽曲の創作）によって評価する。

テキスト 二俣泉著『音楽療法の設計図』（春秋社）

オフィス・アワー 授業時に、講師のメールアドレスを伝える。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 長寿国日本では高齢者のための施策が必要であり、音楽療法は認知症予防やQOL（生命の質）の向上をめざして、重要な役割を果たすことができる。なぜ音楽療法が貢献できるのか、その歴史と原理を学ぶ。そして音楽療法士になるための高齢者領域の知識と実際的な技能の習得をめざす。

講義内容は音楽療法で作用する音楽の機能について、科学的に音楽構成要素の生理心理学的な影響を理解させる。治療理論や老年期の精神疾患、認知症診断尺度、療法効果の講義と併行して、音楽療法を実践するための技能を習得できるように、毎回、課題を出す予定である。

授業計画

-
- | | |
|------|------------------|
| 第1回 | 音楽療法の定義、歴史、日本の現状 |
| 第2回 | 音楽療法の対象者 |
| 第3回 | 音楽のもつ機能の科学的な証明 |
| 第4回 | 音楽療法の生理学的治療理論 |
| 第5回 | 脳機能とリズムの関連性 |
| 第6回 | 老年精神医学と高齢者への対応法 |
| 第7回 | 高齢者音楽療法の目標 |
| 第8回 | プログラム構成の理論的な裏付け |
| 第9回 | 認知症予防のための音楽療法 |
| 第10回 | 回想法 |
| 第11回 | プログラムの年間計画 |
| 第12回 | 高齢者音楽療法の記録と評価 |
| 第13回 | 特別養護老人ホームでの実習体験 |
| 第14回 | 高齢者デイサービスでの実習体験 |
| 第15回 | 記述試験と歌唱・伴奏の実技試験 |
-

成績評価 記述試験と歌唱・伴奏の実技試験

テキスト 貫行子著『新訂 高齢者の音楽療法』（音楽之友社 2009）

オフィス・アワー [火] 14：30～14：50 13階講師室

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 音楽療法は、年齢・障害・領域によって音楽の使い方、セッションの進め方、形態、評価の仕方等が変わってくる。

各論Ⅲでは、おもに思春期と成人の音楽療法に関して講義を行なっていく。様々な障害や疾患に関しての知識を持ち、それらの障害や疾患に有効な音楽療法の方法を考えて行く。

授業計画

第1回	障害・疾患とは何か
第2回	精神科の音楽療法①
第3回	精神科の音楽療法②
第4回	慢性疾患の音楽療法①
第5回	慢性疾患の音楽療法②
第6回	心身症の音楽療法①
第7回	心身症の音楽療法②
第8回	神経症・うつ状態の音楽療法①
第9回	神経症・うつ状態の音楽療法②
第10回	発達障害の音楽療法①
第11回	発達障害の音楽療法②
第12回	緩和ケアの音楽療法①
第13回	緩和ケアの音楽療法②
第14回	現代人における音楽療法の必要性
第15回	試験

成績評価 授業態度及び筆記試験により総合的に評価する。

テキスト 日野原重明監修『標準 音楽療法入門 下実践編』（春秋社）

オフィス・アワー 学生からの授業内容及び音楽療法に関する質問・相談は、授業終了後教室及びEメールで対応する。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 音楽療法の「音楽」は、対象者のニーズに応じて提供されなければならない。この場合の「音楽」とは、楽器演奏だけでなく声や身体の動きなども含まれる。この授業では、様々なセッション形態を想定して「対象者に合わせた音楽の提供」を数多く体験する。「技法」とは、楽器演奏技術だけでなく、対象者とコミュニケーションするための音楽能力を指し、それらの向上を目指す。

授業計画

第1回 楽器の紹介	第16回 VTRによる活動場面紹介④
第2回 楽器によるコミュニケーション	第17回 音楽療法の「音楽」について
第3回 楽器活動のロールプレイ①	第18回 歌唱・楽器活動の伴奏
第4回 VTRによる活動場面紹介①	第19回 身体活動の紹介
第5回 対象者を想定した楽器活動	第20回 VTRによる活動場面紹介⑤
第6回 VTRによる活動場面紹介②	第21回 VTRによる活動場面紹介⑥
第7回 活動（あいさつの曲）を作る①	第22回 活動を作る①
第8回 活動（あいさつの曲）を作る②	第23回 活動を作る②
第9回 楽器活動のロールプレイ②	第24回 活動を作る③
第10回 様々な音階の体験	第25回 VTRによる症例①
第11回 様々なリズムの体験	第26回 VTRによる症例②
第12回 音楽の作用について①	第27回 VTRによる症例③
第13回 音楽の作用について②	第28回 対象者への理解と関わり方①
第14回 音楽の作用について③	第29回 対象者への理解と関わり方②
第15回 VTRによる活動場面紹介③	第30回 まとめ

成績評価 授業態度、課題の提出などを重視する。必要に応じてレポート提出、試験を行なう。

テキスト 授業時に適宜プリントを配布する。

オフィス・アワー Eメールで対応する。

音楽療法総合演習

講師 中山晶世

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 音楽療法実践において重要なことは、対象者とセラピストとそして音楽がどのように関わって良い時間を作って行くかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかどうかを検討しなければならない。

音楽療法総合演習では、実践の前段階としてビデオ等を使用しながら、対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。

授業計画 前半は、高齢者の音楽療法での対象者の見方、対応の仕方、音楽の使い方及び高齢者施設での実習のビデオの観察と記録の仕方を学ぶ。

後半は、応用行動分析的アプローチ(ABA)のテキストを使って児童の音楽療法での対象者の見方、対応の仕方、音楽の使い方などを学ぶ。

第1回	高齢者の音楽療法①	第16回	児童の音楽療法③
第2回	高齢者の音楽療法②	第17回	児童の音楽療法④
第3回	高齢者の音楽療法③	第18回	児童の音楽療法⑤
第4回	ビデオ観察方法と記録の取り方	第19回	児童の音楽療法⑥
第5回	高齢者施設の実習①のビデオ観察	第20回	児童の音楽療法⑦
第6回	高齢者施設の実習②のビデオ観察	第21回	児童の音楽療法⑧
第7回	高齢者施設の実習③のビデオ観察	第22回	児童の音楽療法⑨
第8回	高齢者施設の実習④のビデオ観察	第23回	児童の音楽療法⑩
第9回	高齢者の音楽療法④	第24回	児童の音楽療法⑪
第10回	高齢者施設の実習⑤のビデオ観察	第25回	児童の音楽療法⑫
第11回	高齢者施設の実習⑥のビデオ観察	第26回	児童の音楽療法⑬
第12回	高齢者施設の実習⑦のビデオ観察	第27回	児童の音楽療法⑭
第13回	高齢者施設の実習⑧のビデオ観察	第28回	児童の音楽療法⑮
第14回	児童の音楽療法①	第29回	児童の音楽療法⑯
第15回	児童の音楽療法②	第30回	試験

成績評価 クラス内での協調性、積極性等の授業態度及び筆記試験により総合的に評価する。

テキスト 中山晶世共著『音楽療法士のためのABA入門～発達障害児の応用行動分析的アプローチ～』（春秋社）

オフィス・アワー 学生からの授業内容及び音楽療法に関する質問・相談は授業終了後、教室及びEメールで対応する。

音楽療法実習(事前指導)

講師 中山晶世

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：実習・事前指導・事後指導で3単位 開講形態：実習

授業目標 音楽療法実習及び介護実習を行なうに当たって心がけなければならないことについて学ぶ。また、音楽療法実習及び介護実習の目的や内容について理解する。
音楽面では、実習の準備として、使用する曲についての楽器の奏法を学ぶ。また、音楽療法実践場面を想起し、模擬セッションをし、実習に備える。

授業計画

第1回	音楽療法実習を行なうに当たっての心得
第2回	音楽療法実習及び介護実習施設の説明
第3回	実習日誌の書き方の説明と練習
第4回	各実習施設の利用者についての障害・疾患についての予備勉強(発達障害)
第5回	各実習施設の利用者についての障害・疾患についての予備勉強(高齢者①)
第6回	各実習施設の利用者についての障害・疾患についての予備勉強(高齢者②)
第7回	各実習施設の利用者についての障害・疾患についての予備勉強(高齢者③)
第8回	コンサート準備 計画・選曲・練習 (高齢者施設)
第9回	コンサート施設 練習
第10回	高齢者施設の実習で行なわれる歌唱の練習と伴奏法。模擬セッション①
第11回	高齢者施設の実習で行なわれる歌唱の練習と伴奏法。模擬セッション②
第12回	高齢者施設の実習で行なわれる歌唱の練習と伴奏法。模擬セッション③
第13回	高齢者施設の実習で行なわれる歌唱の練習と伴奏法。模擬セッション④
第14回	高齢者施設の実習で行なわれる歌唱の練習と伴奏法。模擬セッション⑤
第15回	試験

成績評価 クラス内での協調性、積極的な参加態度及び筆記試験などにより総合的に評価する。

テキスト 必要な楽譜は適宜配布する。

オフィス・アワー 学生からの授業内容及び音楽療法に関する質問・相談は、授業終了後教室及びEメールで対応する。

音楽療法実習(事後指導)

講師 中山晶世

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門/2年次生

開講学期：前期 単位数：実習・事前指導・事後指導で3単位 開講形態：実習

授業目標 前年度に引き続き、この時間を使って介護施設を訪問し、音楽療法実習及び介護実習を行なう。実習に備えて、音楽技術を高め、高齢者の音楽療法のセッション技術を深める。

また、終了した音楽療法実習、介護実習、コンサートを振り返り、実習で学んだことや疑問点を話し合い、音楽療法についての理解を深める。

授業計画

第1回	高齢者の音楽療法実習準備①
第2回	高齢者の音楽療法実習準備②
第3回	高齢者の音楽療法実習準備③
第4回	高齢者の音楽療法実習準備④
第5回	高齢者施設での実習①
第6回	高齢者施設での実習②
第7回	高齢者施設での実習③
第8回	高齢者施設での実習④
第9回	実習反省及び準備(学校にて)
第10回	高齢者施設での実習⑤
第11回	高齢者施設での実習⑥
第12回	高齢者施設での実習⑦
第13回	高齢者施設での実習⑧
第14回	実習の反省及び記録
第15回	実習の反省及び検討

成績評価 実習での協調性、積極的な参加態度などにより総合的に評価する。

テキスト 必要な楽譜・資料は適宜配布する。

オフィス・アワー 学生からの授業内容及び音楽療法に関する質問・相談は授業終了後、教室及びEメールで対応する。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 臨床心理学とは心理的な問題の解決や適応のため、助言・相談や診断・治療、および、その研究を行う心理学の一分野である。情報過多や人間関係などから生じる葛藤や不安、怒り、孤独感などによって生じる心理的問題とその治療について考える。また、臨床現場で使われている各種の心理テストを実際に受けて、自分自身を知ると共に、人間の思考・感情・行動を検証する。

授業計画

Part 1. 臨床心理学の基礎

第1回 臨床心理学・カウンセリングの概要と歴史

第2回 「正常」と「異常」について

第3回 心の病とは何か

第4回 主な心の病

第5回 人間理解、自己理解

Part 2. カウンセリング・心理療法

第6回 カウンセリング・心理療法の一般的な展開

第7回 カウンセラーに必要なスキル

第8回 カウンセリングにおけるコミュニケーションと分析方法

第9回 心理的問題の水準と診断的分類

第10回 心理テストと心理的アセスメント

Part 3. 社会と心の病

第11回 日本人に多い精神障害

第12回 パーソナリティ障害

第13回 気分障害

第14回 メンタルヘルスを巡る諸問題

第15回 心の健康とは

成績評価 前期はレポート、後期は筆記試験で行う他、受講態度も評価の対象とする。また、集中講義のため、原則として各講義実施日に3分の1以上欠席した場合は不合格とする。

テキスト 学生は購買部を通じて次のプリント教材を購入する。「臨床心理学」(約600円)

オフィス・アワー 教授者と面会が必要な場合は、まずEメールで予約をすること。
学生からの質問、課題の提出はEメールでも受け付ける。

ピアノ伴奏法演習A

教授 藤井孝子

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：前期 単位数：1単位 開講形態：演習

授業目標 伴奏の重要性をあらためて感じとり、ピアノ伴奏に興味をもたせる。声楽の伴奏では、連弾と違った呼吸法を、器楽の伴奏では、器楽の特性によるフレーズ感を伴奏にいかす力を身につける。実践を通して、詩・言葉によってあらわされた情景や、詩・言葉から引きだされた情感をいかに的確にピアノ伴奏で表現するかを学ぶ。

授業計画 学内演奏会・定期演奏会オーディションに向けて、伴奏法の研究を行う。

第1回 伴奏とは

第2回 日本歌曲の伴奏<瀧 廉太郎の作品>

第3回 日本歌曲の伴奏<山田 耕筰の作品>

第4回 モーツァルトの歌曲の伴奏<すみれ>

第5回 教育実習で取り上げる曲の伴奏

第6回 //

第7回 シューベルトの歌曲の伴奏<野ばら>

第8回 シューベルトの歌曲の伴奏<ます>

第9回 学内演奏会の曲の伴奏

第10回 //

第11回 //

第12回 定期演奏会オーディションの曲の伴奏

第13回 //

第14回 //

第15回 //

成績評価 授業態度で評価する。

テキスト 各自で、上記の楽譜を用意する。

オフィス・アワー 授業終了後、教室にて

備考 学内演奏会・定期演奏会オーディションで伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

ピアノ伴奏法演習B

教授 藤井孝子

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／2年次生、専攻生

開講学期：後期 単位数：1単位 開講形態：演習

授業目標 ソロの演奏を支えつつ、伴奏でさらなる豊かな音楽を拓けていく能力を身につける。卒業後の演奏活動に役立つよう、更に実践的な伴奏法を学び、伴奏の魅力を追及する。

授業計画 定期演奏会・卒業演奏試験に向けて、より高度な伴奏法を学ぶ。

第1回 定期演奏会の曲の伴奏

第2回 ”

第3回 ”

第4回 イタリア古典歌曲の伴奏

第5回 ”

第6回 ”

第7回 合唱曲の伴奏<高田 三郎の作品>

第8回 合唱曲の伴奏<新実 徳英の作品>

第9回 合唱曲の伴奏

第10回 卒業演奏試験の曲の伴奏

第11回 ”

第12回 ”

第13回 ”

第14回 ”

第15回 ”

成績評価 授業態度で評価する。

テキスト 各自で、定期演奏会・卒業演奏試験で伴奏する楽譜を用意する。
必要な楽譜は、授業中に適宜配布する。

オフィス・アワー 授業終了後、教室にて

備考 卒業演奏試験で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

ウインド・アンサンブルⅠ・Ⅱ 教授 下野竜也／准教授 海保 泉／准教授 彦坂眞一郎
【大学との単位互換科目】 講師 大河内雅彦／講師 小倉史生／講師 岡田全弘
 講師 小寺香奈／講師 伊藤 圭／講師 萩原顕彰／短大教授 飯島和久／講師 兼氏規雄

対象専門・学年：【Ⅰ】全専門／1年次生 【Ⅱ】全専門／2年次生
 開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 近年、吹奏楽愛好者の増加、学校教育等における吹奏楽（コンクール等）の発展により、音楽大学（管・打楽器専攻生）出身者に寄せる吹奏楽会からの期待値は高い。合奏に参加する際に、演奏のみならず、将来、吹奏楽指導の可能性も視野に入れた姿勢で履修させたい。この授業は指揮者からの指導のみならず、各セクションに専門教員が座り指示をし行っていく。

また、本学では、レパトリーは吹奏楽オリジナル作品を取り上げることがを基本としている。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第2回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第17回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第3回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第18回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第4回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第19回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第5回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第20回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第6回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第21回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第7回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第22回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第8回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第23回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第9回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第24回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第10回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第25回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第11回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第26回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第12回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第27回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第13回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第28回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第14回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第29回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習
第15回	基礎合奏、吹奏楽オリジナル曲を使用した演習	第30回	定期演奏会(2月を予定)

成績評価 授業態度

テキスト ※授業目標欄を参照のこと。

オフィス・アワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。

履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。

専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

対象専門・学年：ピアノ専門/1年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：実技

授業目標 ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・運指・脱力を確認し、基礎テクニック・拍節感を確立させることをテーマとする。主に、前期演奏試験課題曲である古典派のソナタで、読譜力・解釈力・構成力を、後期演奏試験課題曲であるロマン派・近現代の作品では、呼吸法・表現力・音の色彩感を養うことを目標とする。

授業計画 年間30回 各人50分の個人指導
 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
 ・実技演習(1)～(3)においては、基礎的なことの確認をする。
 ・実技演習(4)～(13)においては、前期試験課題曲である古典派のソナタを主に取りあげ、様式感や楽曲の形式を理解し、演奏にむすびつけることを学ぶ。
 ・実技演習(14)～(17)においては、短期大学部定期演奏会のオーディションで演奏する曲を主にとりあげ、短期間で曲の解釈をし、聴衆の前で演奏できるまでに仕上げる。
 ・実技演習(18)～(30)においては、後期試験課題曲であるロマン派・近現代の作品を主に取りあげ、和声感・ペダルの使い方・フレーズ感・呼吸法などを学ぶ。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 前期実技試験・後期実技試験の評価が、50点以上であること。
 実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
 なお、実技試験評価は複数教授者（ピアノ実技担当教授者）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィス・アワー 1110研究室（10：00～17：00） 月曜日・水曜日・金曜日

対象専門・学年：ピアノ専門/2年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：実技

授業目標 より高度なテクニック・より深い音楽表現・より豊かな音楽表現を習得することをテーマとする。様々な作曲家特有の語法を学び、楽曲にあった音色・音楽表現を追究し、質の高い演奏にむすびつけることを目標とする。

授業計画 年間30回 各人50分の個人指導
 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
 ・実技演習(1)～(3)においては、学内演奏会で演奏する2台あるいは連弾の曲をとりあげ、2人で同じ音色をつくり、一体化した表現をしていくことを学ぶ。
 ・実技演習(4)～(7)においては、オーディションで演奏する曲を主にとりあげ、卒業演奏試験に向けて、様々なタッチを習得し、音質・表現の追究をする
 ・実技演習(8)～(30)においては、卒業演奏試験の曲をとりあげる。2年間の集大成として、作曲家の意図する音楽表現を学ぶ。卒業演奏試験は、ホールでの一般公開で、ステージマナーもあわせて習得する。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(6)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(7)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(8)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(9)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 卒業演奏試験の評価が、50点以上であること。
 卒業演奏試験に平常点を加味して総合的に評価。
 なお、卒業演奏試験評価は複数教授者（ピアノ実技担当教授者）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィス・アワー 1110研究室（10：00～17：00） 月曜日・水曜日・金曜日

対象専門・学年：器楽専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：実技

授業目標 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 年間30回 各人50分の個人指導

- ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。
- ・入学前に勉強してきたことの整理し見極め、基礎技術の強化を行う。
- ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 前期実技試験・後期演奏試験の評価が、50点以上であること。
実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教授者（管弦打楽器実技担当教授者）による

テキスト 各教授者から指示あり。

オフィス・アワー 各実技担当教授者研究室（各実技担当教授者レッスン日）

対象専門・学年：器楽専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：実技

授業目標 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。

授業計画 年間30回 各人50分の個人指導

- ・技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。
- ・1年次を振り返り、基礎的な技術の習得を再確認するとともに、さらに高度な教材を用いて学習してゆく。
- ・演奏する際に生じてくる技術的な問題点を克服する練習方法を研究する。
- ・技術と音楽性のバランスを保ちながらひとつの作品を仕上げてゆく。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(6)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(7)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(8)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(9)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(10)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(11)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(12)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(13)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(14)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(15)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(16)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(17)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(18)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(19)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(20)

成績評価 卒業演奏試験の評価が50点以上であること。
卒業演奏試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、卒業演奏試験評価は複数教授者（管弦打楽器実技担当教授者）による。

テキスト 各教授者から指示あり。

オフィス・アワー 各実技担当教授者研究室（各実技担当教授者レッスン日）

対象専門・学年：声楽専門/1年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：実技

授業目標 歌唱に必要な、基礎技術を習得することをテーマとする。すなわち、正しい姿勢および腹式呼吸による、自然な発声を身につける。

また、イタリア古典歌曲を中心に学ぶ中から、ディクシオン（詩・韻律）と音楽（旋律）との深い関わりを認識することによって、豊かな感性と表現力を育み、それを歌唱技術だけでなく、人間性の向上にも繋げることが目標である。

授業計画 年間30回 各人50分の個人指導

実技演習は、前期を(1)～(15)とし、後期を(16)～(30)とする。

前期試験課題曲は任意の歌曲。

声楽を学ぶ上で、まずベルカント唱法を習得するため、以下の点を学ぶ。

- ・コンコーネ等のエチュードを取り上げ、歌唱の基礎である、姿勢・呼吸・発声法
- ・イタリア古典歌曲を中心に、ディクシオンと音楽の結びつき、フレーズ感の習得

後期試験課題曲は、日本歌曲および自由曲。

日本語が持つ語感の美しさから、繊細な感性・感覚を磨き、自然で美しい歌唱表現を身につける。

また、他の楽曲も取り上げ、楽曲の解釈ならびに演奏能力の拡大を目標とする。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 前期実技試験・後期実技試験の評価が50点以上であること。

実技試験に平常点を加味して総合的に評価する。

なお、実技試験評価は複数教授者(声楽実技担当教授者)によるものとする。

テキスト コンコーネ50番

イタリア古典歌曲集

その他、担当教官より、授業内にて適宜指示する。

オフィス・アワー 13Fオフィス・アワー・ラウンジ (10:00～16:30)

対象専門・学年：声楽専門/2年次生

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：実技

授業目標

1年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。
 個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリアへもレパートリーを拡げながら、発声法のテクニック向上を目指すことはもちろん、楽曲分析なども行っていく。高度な歌唱技術の習得だけではなく、歌う喜びを聴く人の心にもまで響かせる、表現力豊かな演奏の実現を目標とする。

授業計画

年間30回 各人50分の個人指導
 実技演習は、前期を(1)~(15)とし、後期を(16)~(30)とする。
 前期試験は行わず、学内演奏会形式による。
 独唱または重唱や、器楽のオブリガードをとまなう楽曲も可能とし、演奏表現の幅を拡げ、演習の成果をホールにて発表する。
 後期試験は、すなわち卒業演奏試験。
 8分程度の歌曲および自由曲とする。
 オペラや、オラトリオのアリアにもレパートリーを拡げて行き、豊かな感性と表現力を育むことを目標とする。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価

卒業試験の評価が50点以上であること。
 卒業演奏試験に平常点を加味して総合的に評価。
 なお、卒業演奏試験評価は複数教授者(声楽実技担当教授者)によるものとする。

テキスト

担当教授者より、授業内にて適宜指示する。

オフィス・アワー 13Fオフィス・アワー・ラウンジ (10:00~16:30)

副科ピアノ

ピアノ主任 教授 藤井孝子

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：器楽・声楽専門/1～2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 単旋律を演奏している学生が、複旋律をピアノで演奏することにより、より和声感・調性感を養うことを目指す。ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・正しい運指を習得して、楽譜通りに演奏できる能力を身につけることを目標とする。

授業計画 年間30回 各人25分の個人指導

実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。

2年間、音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで、和声感を学ぶ。

・1年前期は、試験課題曲である練習曲で、基礎テクニックをつける。

・1年後期は、試験課題曲であるバロックの曲で、和声感・対位法を学ぶ。

・2年では、様々なピアノ曲に接し、読譜力・解釈力・表現力を身につける。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 前期実技試験・後期実技試験の評価が、50点以上であること。
実技試験に平常点を加味して総合的に評価。
なお、実技試験評価は複数教授者（ピアノ教授者）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィス・アワー 月・水・金 1110研究室（10：00～17：00）

副科器楽

器楽主任 教授 飯島和久

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門/1～2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 自分の専門以外の楽器の奏法を習得し、さらに豊かな表現を目標とし、広く器楽教育の視野を持てるようにすることが望ましい。今日の学校教育の現場に於いては多様な音楽教育が行われている。自分の専門外の楽器を研究することは教職取得のみならず、大きな意味で、自分の音楽世界が広がっていくことであろう。

授業計画 年間30回 各人25分の個人指導

- ・ 古楽器以外全ての楽器を履修可能だが、個人持ちの楽器を所有、あるいは購入意志のある学生でないと履修できない。ただし、フルート（貸し出し楽器あり）、ヴァイオリン（貸し出し楽器あり）、ハーブ（短大備品）、は購入の必要はない。（フルート、ヴァイオリンは数に限りあり）

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 授業態度
授業の最後にテストを行う。

テキスト 各教授者から指示あり。

オフィス・アワー 副科レッスン後直ぐに対応する。予約も可能。

副科声楽

声楽主任 准教授 細谷美内

※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：声楽専門以外の全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 歌唱の基本、すなわち、正しい姿勢と腹式呼吸による、自然な発声法を習得することをテーマとする。

それぞれが持つオリジナル楽器である「声」を研究することは、自分の個性と音楽を知ることに通じる。「声」＝「音色」の特性を十分に生かせるような発声法および歌唱表現を習得し、詩・韻律と旋律との関係を学ぶことにより、音楽性を更に充実させることが目標である。

授業計画 年間30回 各人25分の個人指導

実技演習は、前期を(1)～(15)とし、後期を(16)～(30)とする。

前期試験は、コンコーネ他、エチュード1曲を課題曲とする。

唱法は母音唱法、音階唱法など自由であるが、歌唱の基本を学び、自然で美しい発声を目指とする。

後期試験では、イタリア古典歌曲他、自由曲1曲を課題とする。

ディクション（詩・韻律）と音楽（旋律）との深い関わりを習得し、独自の歌唱表現を身につける。

第1回 実技実習(1)	第16回 実技実習(16)
第2回 実技実習(2)	第17回 実技実習(17)
第3回 実技実習(3)	第18回 実技実習(18)
第4回 実技実習(4)	第19回 実技実習(19)
第5回 実技実習(5)	第20回 実技実習(20)
第6回 実技実習(6)	第21回 実技実習(21)
第7回 実技実習(7)	第22回 実技実習(22)
第8回 実技実習(8)	第23回 実技実習(23)
第9回 実技実習(9)	第24回 実技実習(24)
第10回 実技実習(10)	第25回 実技実習(25)
第11回 実技実習(11)	第26回 実技実習(26)
第12回 実技実習(12)	第27回 実技実習(27)
第13回 実技実習(13)	第28回 実技実習(28)
第14回 実技実習(14)	第29回 実技実習(29)
第15回 実技実習(15)	第30回 実技実習(30)

成績評価 前（後）期演奏試験の評価が50点以上であること。

実技試験に平常点を加味し、総合的に評価する。

なお、実技試験評価は複数教授者(声楽実技担当教授者)によるものとする。

テキスト コンコーネ50番

イタリア古典歌曲集

その他、担当教授者より、授業内にて適宜指示する。

オフィス・アワー 13Fオフィス・アワー・ラウンジ（10：00～16：30）

指揮法

講師 木賊川千草

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標

基礎的な指揮の一般的技法の指導

- ・指揮の歴史概要について（17～20世紀の音楽史をとおして）
- ・指揮者の資格・使命・スコアの読み方等の指導
- ・基本打の各種の用法の指導
- ・指揮の実習練習

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	基本打の用法12拍子
第2回	指揮の歴史概要について	第17回	複合拍子 基本打の用法5拍子
第3回	指揮者の資格、使命等について	第18回	基本打の用法7拍子、8拍子
第4回	スコアの読み方（ハ音記号等）	第19回	指揮の実習練習
第5回	移調楽器の記譜法等について	第20回	指揮の実習練習
第6回	基本打の用法	第21回	指揮の実習練習
第7回	基本打の用法	第22回	指揮の実習練習
第8回	アフタクト、終止等	第23回	指揮の実習練習
第9回	スタッカート、フェルマータ	第24回	指揮の実習練習
第10回	単純拍子 基礎打の用法4拍打	第25回	指揮の実習練習
第11回	基礎打の用法4拍打	第26回	指揮の実習練習
第12回	基礎打の用法3拍打	第27回	指揮の実習練習
第13回	基礎打の用法2拍打	第28回	指揮の実習練習
第14回	複合拍子 基本打の用法6拍子	第29回	指揮の実習練習
第15回	基本打の用法9拍子	第30回	総括

成績評価 年間を通して、授業中の提出物と後期に行う筆記試験を考慮して評価する。

テキスト テキストは用いない。その都度資料を配布する。

オフィス・アワー 授業終了後教室にて。

教育合奏

講師 木賊川千草

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 教育合奏で使用される楽器の指導法（アルト・リコーダー、小太鼓を中心）
和楽器の一般的な基礎知識（記譜法、歴史を含む）を指導
教育合奏用楽器を使用した編曲を実施しながら指導

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	教育合奏用の編曲法の一般知識
第2回	AR、SDの指導法	第17回	スコアの読み方、記譜法
第3回	AR、SDの指導法	第18回	リズム楽器を用いた編曲
第4回	AR、SDの指導法	第19回	リズム楽器を用いた編曲の実施
第5回	AR、SDの指導法	第20回	木琴・鉄琴を用いた編曲
第6回	AR、SDの指導法	第21回	リズム楽器、木琴、鉄琴を用いた編曲の実施
第7回	AR、SDの指導法	第22回	リード楽器を用いた編曲
第8回	AR、SDの指導法	第23回	リード楽器を用いた編曲の実施
第9回	AR、SDの指導法	第24回	リズム楽器、リード楽器を用いた編曲の実施
第10回	AR、SDの指導法	第25回	リズム楽器、リード楽器を用いた編曲の実施
第11回	アンサンブルの試験	第26回	リコーダーを用いた編曲
第12回	和楽器雅楽の歴史及び基礎知識	第27回	リコーダー、リード楽器を用いた編曲の実施
第13回	尺八、箏の歴史及び基礎知識	第28回	全楽器を使用した編曲
第14回	三味線、琵琶の基礎知識	第29回	全楽器を使用した編曲の実施
第15回	打楽器の基礎知識	第30回	第30回 総括

成績評価 実技試験（アンサンブル）、筆記試験

テキスト テキストは用いない。その都度資料を配布する。

オフィス・アワー 授業終了後教室にて。

教育合奏『和楽器(長唄)』
【教育職員免許状取得に関わる科目】

講師 山田正子

対象専門・学年：全専門／2年次生
開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：実技

授業目標 日本伝統文化である長唄三味線の面白さ、繊細さ四季折々の表現のしかたそして細棹の三味線ならではの奏でる音より日本人としての完成を磨いていただきたいと考えている。
長唄“土ぐも”より抜粋して“馬の合方”をアンサンブルで弾く事を目標とする。

授業計画

- | | |
|-----|-----------------------|
| 第1回 | バチの持ち方 三味線の弾き方・音階 |
| 第2回 | 童謡“さくら”の手本と替手 |
| 第3回 | 長唄“土ぐも”より抜粋“馬の合方”① |
| 第4回 | 長唄“土ぐも”より抜粋“馬の合方”②仕上げ |

成績評価 最後の授業にて課題曲を決め実技試験をおこなう。

テキスト ※適宜配布する。
『はじめての三味線』
『長唄 研精会譜』

オフィス・アワー Eメールにて対応する。

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 教師のイメージの歴史と現在について理解し、教師の資質と力量、およびその役割について考察する。

授業計画 I. 近代教育思想における教師のイメージ
II. 戦後教育の法制における教師のイメージについて概説する。

第1回 オリエンテーション

第2回 ルソー『エミール』

第3回 同上

第4回 ベスタロツツイ『隠者の夕暮』

第5回 同上

第6回 ヘルバルト『世界の美的表現』

第7回 同上

第8回 フレーベル『人間の教育』

第9回 同上

第10回 デューイ『学校と社会』

第11回 日本国憲法と教員

第12回 教育基本法と教員

第13回 学校教育法と教員

第14回 現代学校と教員

第15回 教師論の意味と課題（まとめ）

成績評価 レポート提出など。

テキスト 必要に応じて提示する。

オフィス・アワー 授業後の教室にて質問等を受け付ける。

教育原理

講師 瀧川 淳

【教育職員免許状取得に関わる科目】 ※音楽療法士養成に関する科目

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 教育は、「教える」と「学ぶ」の関係である。この関係は、どこでも誰とでも結ぶことができる。だから一見単純のように感じるかもしれない。しかし実は複雑で難解な関係である。事実、教育は昔から多くの教育者や哲学者たちが論じてきた。この講義では、学生の身近に生じている教育問題を取り上げながら、その背景にある教育の理念ならびに教育に関する歴史や思想を学ぶ。

授業計画 本授業は、下記のテーマに沿って、学生参加のディスカッション形式で進めていく。

第1回 オリエンテーション

第2回 教育とは何か

第3回 現在の教育問題について考える(1)

第4回 現在の教育問題について考える(2)

第5回 学校について

第6回 学校制度の歴史(1)

第7回 学校制度の歴史(2)

第8回 子どもとは何か

第9回 現代の子どもの教育

第10回 教育の目的

第11回 教育思想を知る(1)

第12回 教育思想を知る(2)

第13回 教師論(1)

第14回 教師論(2)

第15回 総括

成績評価 受講態度、小レポート、最終レポートを総合的に判断する。

テキスト 毎時必要なプリントを提示する。

オフィス・アワー 水・金 (12:20~13:00) 研究室

備考 この講義は、ディスカッションによって知識を深めていく。したがって、学生の積極的な参加を毎回期待する。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、現在の教育心理学が取り組んでいる主要な問題について、それを裏付けている心理学的知識の解説を施しながら学習と理解を深め、教育実践への手がかりを提供する。

授業計画

-
- | | |
|------|-------------------|
| 第1回 | 教育心理学とは何か |
| 第2回 | 学校という制度 |
| 第3回 | 人間の発達：乳児期、幼児期 |
| 第4回 | 人間の発達：児童期、青年期 |
| 第5回 | 小学生、中学生、高校生の心理と指導 |
| 第6回 | 学ぶということ：学習の原理・理論 |
| 第7回 | 学ぶということ：各種の学習理論 |
| 第8回 | 学習の指導(1) |
| 第9回 | 学習の指導(2) |
| 第10回 | 個性を伸ばすとは |
| 第11回 | 心の悩みとカウンセリング |
| 第12回 | 教育評価のありかた |
| 第13回 | 学級指導・生徒指導 |
| 第14回 | 教師という職業 |
| 第15回 | まとめ |
-

成績評価 受講態度と試験の成績を総合しておこなう。

テキスト 滝沢武久編著『はじめての教育心理学』（八千代出版）

オフィス・アワー 月・水・木（12：20～12：40）研究室

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 発達とは、固体が受胎から成熟して死に至るまで、その内的心理的傾向（能力、性格等）がどのように変化するかを指す。発達心理学は、まずこうした事象を客観的に記述していきながら、同時に、自ら人間をどのように教育すればよいかという実践的問題とも関連をもつ。授業の目標は、発達の基礎原理を理解しながら人の生涯発達についての全体像を把握することである。

授業計画

第1回	発達の定義と原理
第2回	発達心理学の歴史
第3回	発達の概要(1)
第4回	発達の概要(2)
第5回	遺伝と環境
第6回	感覚と知覚の発達
第7回	認知の発達
第8回	記憶の発達
第9回	言語の発達(1)
第10回	言語の発達(2)
第11回	思考の発達(1)
第12回	思考の発達(2)
第13回	感情の発達
第14回	社会性の発達
第15回	まとめ

成績評価 受講態度と試験成績を総合しておこなう。

テキスト 小野寺敦子著『手にとるように発達心理学がわかる本』（かんき出版）

オフィス・アワー 月・水・木（12：20～12：40）研究室

備考 人間に関心を持ち、人の一生を考え、先人の考えを踏まえつつ勉強していきたい学生さんの参加を歓迎します。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 現代のわれわれの生活にはコンピュータが欠かせない。この高度情報社会の急速な進展に対応するため、学校教育の現場においてもコンピュータの利用、教育への活用が推進されている。情報社会の新しい教育の可能性とはなにか。情報活用能力とは、そして情報とは何か。授業の目標はこれらについて広く“情報論・メディア論”の視点から学び、現状と近未来への予見をもつことである。また、実際にコンピュータに触れてその扱いになじみ、自己表現の有効な道具・教育メディアとなり得ることを体験してもらう。

授業計画

第1回	情報とはなにか
第2回	コンピュータの原理・歴史
第3回	情報の伝達と理解およびリテラシー
第4回	人間の情報処理とコンピュータの比較
第5回	コンピュータ支援教育 (CAI, CAL)
第6回	教師とコンピュータ
第7回	視聴覚教育の理論
第8回	視聴覚メディアの種類と使用法
第9回	情報化の光と影
第10回	コンピュータによるスライド作成実習 1
第11回	コンピュータによるスライド作成実習 2
第12回	コンピュータによるスライド作成実習 3
第13回	コンピュータによるスライド作成実習 4
第14回	コンピュータによるスライド作成実習 5
第15回	プレゼンテーションとまとめ

成績評価 受講態度、プレゼンテーションの評価、および試験成績を総合しておこなう。

テキスト 井上智義編『視聴覚メディアと教育方法Ver.2』（北大路書房）

オフィス・アワー 月・水・木（12：20～12：40）研究室

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 「音楽科教科教育法」では、音楽教育の実践に必要な知識・指導技術を身につけるために、次の項目を主な目標とする。

1. 教育の意義・歴史を理解し音楽教育への使命感の自覚を深める。
2. 学習指導要領に基づいた学習指導案作成の習熟を図る。
3. 模擬授業を通して、授業展開のあり方及び指導技術の向上を図る。

授業計画

第 1 回 音楽教育の意義の理解及びその概要の把握

第 2 回 音楽教育の歴史（略史）の理解

第 3～5回 学習指導要領（その変遷を含む）及び今日の音楽教育の課題の把握

第 6～8回 学習指導計画・評価の理解

第 9～10回 教材研究（歌唱共通教材中心）

第 11～13回 学習指導案作成

第 14～15回 模擬授業及び授業展開のあり方のまとめ

成績評価 成績評価は、授業態度、レポート提出、小テスト及びミニレポート提出など総合して行う。

テキスト

- ・畑中良輔他共著『中学生の音楽（1年生用、2・3年生用上・下）』（教育芸術社）
- ・浦田健次郎他共著『中学生の器楽』（教育芸術社）
- ・三善晃他共著『中学音楽 音楽のおくりもの（1年生用、2・3年生用上・下）』（教育出版社）
- ・三善晃他共著『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版社）
- ・教育実習を考える会＝編 新編『教育実習の常識』～事例にもとづく必須66項～（蒼丘書林）
- ・『中学校学習指導要領解説（平成20年9月）音楽編』（文部科学省）

なお、上記テキストはすでに購入済みであれば新たに購入の必要はない。

オフィス・アワー 授業中及び授業後に行う。また昼休み13Fオフィス・アワー・ラウンジでも行う。

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標

基本的な生活習慣や最低限の規範意識、さらに自己肯定感や他社への思いやりの欠如などが指摘されるなか、相手や集団・社会を顧みない自己中心的な生き方が、いま道徳教育の喫緊の課題としてその充実が強く求められている。

本講座は、学校における道徳教育の意義を理解し、その「要」としての道徳の時間の指導を効果的に実践できるよう、演習を交えた指導法を研究する。

毎時間提示する「道徳の時間」の資料から、道徳的価値の感動を覚えたい。

授業計画

第1回	オリエンテーション	現代社会における道徳教育の課題
第2回		「最近の気になる子どもの傾向」を探る
第3回		道徳とは何か：道徳の語義－人間らしく生きる－
第4回		学校における道徳教育の目標とその内容
第5回		「要」としての道徳の時間の目標とその内容
第6回		「道徳の時間」の指導における配慮とその充実
第7回		「道徳の時間」の指導資料とその活用(1)
第8回		「道徳の時間」の指導資料とその活用(2)：資料分析
第9回		「道徳の時間」の指導資料とその活用(3)：資料分析
第10回		「道徳の時間」の学習指導案の内容とその作成について
第11回		「道徳の時間」における学習指導案の作成(1)
第12回		「道徳の時間」における学習指導案の作成(2)：提出
第13回		道徳の指導計画（全体計画・年間指導計画）と評価の観点
第14回		家庭や地域社会との連携による道徳教育
第15回		まとめ 道徳教育の課題とその充実性の認識

成績評価

授業内容を中心とした課題及び筆記試験の成績など総合的に評価する。

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』（日本文教出版）

オフィス・アワー

金曜日（14：55～16：25）1209室、（16：40～18：10）1403室

特別活動

講師 辻野具成

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：後期 単位数：1単位 開講形態：講義

授業目標 特別活動は、「望ましい集団活動を通じて、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことをねらいとして、小・中・高等学校教育課程のなかに、教科指導と並んで位置付けられている重要な教育活動である。
特別活動の教育的な意義や内容と、指導法の実践的な学びを目標とする。

授業計画

第1回	オリエンテーション	小～高校時代の特別活動を振り返る
第2回	特別活動の目標とその教育的意義(1)	
第3回	特別活動の目標とその教育的意義(2)	
第4回	学級活動の目標と内容(1)	学級や学校の生活づくり
第5回	学級活動の目標と内容(2)	適応と成長及び健康安全
第6回	学級活動の目標と内容(3)	学業と進路
第7回	学級活動の指導計画作成における配慮事項	
第8回	生徒会活動の目標と内容	
第9回	学校行事の目標と内容（その特質と種類）	
第10回	生徒会活動・学校行事の指導計画作成における配慮事項	
第11回	特別活動の指導計画の作成と内容の取扱い及び評価	
第12回	学校行事における実施計画案の作成(1)：遠足	
第13回	学校行事における実施計画案の作成(2)：避難訓練	
第14回	学校行事における実施計画案の作成(3)：合唱コンクール	
第15回	まとめ・音楽科教師としての特別活動との関わり	

成績評価 特別活動の各内容の特性や育成したい資質・能力への理解と、授業内容を中心とした演習及び指導への意欲・態度などを総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領概説 特別活動編』（ぎょうせい）

オフィス・アワー 金曜日（14：55～16：25）1209室、（16：40～18：10）1403室

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 生徒指導は、学習指導と共に学校の教育目標を達成するための極めて重要な学校教育の機能であり、生徒の人格形成を直接めざす教育活動である。

現代社会における生徒を取り巻く生活環境からは、自己中心的な発想にともなう言動の粗暴化、よりよい人間関係を築く力の不得手など、生活指導の充実が強く望まれており、とりわけ生徒理解力は必須の目標である。

生徒個人の人間の価値を伸長し、自己実現をめざす生き方の援助を学ぶ。

授業計画

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション 学校教育と生徒指導上の諸問題 |
| 第2回 | 生徒指導の意義と役割：生徒指導の基本的な内容 |
| 第3回 | 生徒指導の基盤としての人間形成：自己指導力の育成 |
| 第4回 | 生徒理解と適切な指導援助 |
| 第5回 | 学校における生徒指導の実態とその対応 |
| 第6回 | 問題行動の実態とその指導 |
| 第7回 | いじめの実態とその指導 |
| 第8回 | 不登校（高校生の中途退学を含む）の実態とその指導 |
| 第9回 | 学級崩壊・薬物乱用・性の逸脱行為の実態とその指導 |
| 第10回 | 進路相談の意義と方法 |
| 第11回 | 教育相談の意義と方法：カウンセリングの理論と技法 |
| 第12回 | 学校・家庭・地域社会の連携による生徒指導 |
| 第13回 | 演習「生徒指導上の課題への対応」(1)：いじめ |
| 第14回 | 演習「生徒指導上の課題への対応」(2)：不登校 |
| 第15回 | まとめ これからの生徒指導の考え方と取り組み |

成績評価 生徒理解・教育相談などに関する内容を中心とした演習及び、筆記試験の成績など総合的に評価する。

テキスト 特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

オフィス・アワー 金曜日（14：55～16：25）1209室・（16：40～18：10）1403室

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：集中講義 単位数：2単位 開講形態：講義

授業目標 学校生活の中で児童・生徒が抱える問題は多種多様である。また、近年は学内外の事件で児童・生徒が被・加害者になるケースが増えたり、特別支援を必要とする障害・問題をもつ児童生徒に対応できる教育が求められており、教育現場における心理学は重要性を増している。この授業では教育相談の理論背景、扱う問題領域等について学び、児童・生徒を指導する際に必要な技法を学ぶ。

授業計画

Part 1. 教育現場における諸問題

第1回 教育相談とは何か

第2回 学校現場での諸問題と指導・対処例①

第3回 学校現場での諸問題と指導・対処例②

第4回 心の病とは何か

第5回 今の子供達を取り巻く諸問題①

Part 2. 教育現場における心理学の応用

第6回 思春期と心の病の関係

第7回 カウンセリングと心理療法

第8回 学校におけるカウンセリング

第9回 心理的問題の水準と心理検査

第10回 今の子供達を取り巻く諸問題②

Part 3. 生徒の個性を重視する教育

第11回 特別支援教育

第12回 発達障害の理解と支援

第13回 精神障害の理解と支援

第14回 人間理解

第15回 良い先生とは（教師としての適性）

成績評価 前期はレポート、後期は筆記試験で行う他、受講態度も評価の対象とする。また、集中講義のため、原則として各講義実施日に3分の1以上欠席した場合は不合格とする。

テキスト 学生は購買部を通じて次のプリント教材を購入する。「教育相談」（約600円）

オフィス・アワー 教授者と面会が必要な場合は、まずEメールで予約をすること。
学生からの質問、課題の提出はEメールでも受け付ける。

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標

本講座は、短期大学の2年間で履修した「教職課程」の総括である。教職に関する履修を通じて学んだ学習知識や技能及び、教育実習などで得た教科指導や生徒指導などに関する実践的かつ効果的な指導力の基礎を定着させる。さらに、使命感や責任感に裏付けられた確かな指導力をもった音楽科教師としての資質や能力の形成と確立を目標とする。

前半の教職に関する講座では、学校現場に生じているさまざまな課題の分析やその解決に向けたグループ討論やロールプレイなどを中心に展開する。

また、後半の教科に関する講座では、新学習指導要領の改訂の方向性と内容を基盤に、模擬授業を通じて実践的な指導技術の向上を図る。

授業計画

第1回	ガイダンス 介護体験・教育実習などの実践の総括と評価
第2回	学習指導要領の改訂とその方向性に向けた討議
第3回	学校現場の現状と求められる教師像（ロールプレイ）
第4回	生徒理解に伴う実態の分析とその対応（ロールプレイ）
第5回	保護者などのクレームに対応する実践事例（ロールプレイ）
第6回	学級担任としての経営能力：「私の学級経営方針」を発表
第7回	中学校学習指導要領（音楽編）の改訂の趣旨と要点を確認
第8回	授業の指導計画と題材設定の在り方
第9回	教材研究や教材・教具の開発及び選定
第10回	実践的な指導案づくりと板書や発問計画
第11回	模擬授業の実践(1) 歌唱活動の指導実践と事後協議
第12回	模擬授業の実践(2) 器楽活動の指導実践と事後協議
第13回	模擬授業の実践(3) 創作活動の指導実践と事後協議
第14回	模擬授業の実践(4) 鑑賞活動の指導実践と事後協議
第15回	観点別学習状況の評価と評価の在り方を協議する・まとめ

成績評価

(1)グループ討議や討論への関心や意欲 (2)模擬授業における指導力と指導上の配慮(3)学習指導案の作成と改善などを総合的に評価する。

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 音楽編』（ぎょうせい）

オフィス・アワー

金曜日（14：55～16：25）1209室・（16：40～18：10）1403室

教育実習

教授 高川進作

【教育職員免許状取得に関わる科目】

対象専門・学年：全専門／2年次生

開講学期：前期 単位数：5単位 開講形態：実習

授業目標 「教育実習」では、音楽教育の実践的な指導力を幅広く培うために、次の項目を主な目標とする。

1. 教育実習の意義・心得など、事前に必要な知識や心構えを理解する。
2. 教材研究・模擬授業などを通して、事前に必要な実践的指導技術の向上を図る。
3. 教育実習の体験から得られた課題を把握し、授業研究の深化を図る。

授業計画

第 1 回 教育実習の意義の理解及びその概要の把握

第 2 回 教育実習の心得及び教育実習日誌の記録の仕方の理解

第 3～4 回 教材研究

第 5～7 回 学習指導案作成

第 8～11 回 模擬授業

第 12～13 回 教育実習体験の反省と今後の課題の把握

第 14～15 回 教育実習体験を生かした授業研究のまとめ

成績評価 成績評価は、授業態度、実習校からの評価、教育実習日誌の記録、レポート提出、小テスト及びミニレポート提出等、総合して行う。

テキスト

- ・畑中良輔他共著『中学生の音楽（1年生用、2・3年生用上・下）』（教育芸術社）
- ・浦田健次郎他共著『中学生の器楽』（教育芸術社）
- ・三善晃他共著『中学音楽 音楽のおくりもの（1年生用、2・3年生用上・下）』（教育出版社）
- ・三善晃他共著『中学器楽 音楽のおくりもの』（教育出版社）
- ・教育実習を考える会＝編 新編『教育実習の常識』～事例にもとづく必須66項～（蒼丘書林）
- ・『中学校学習指導要領解説（平成20年9月）音楽編』（文部科学省）

なお、上記テキストはすでに購入済みであれば新たに購入の必要はない。

オフィス・アワー 授業中及び授業後に行う。また昼休み13Fオフィス・アワー・ラウンジでも行う。

基礎和声

講師 三宅康弘

対象専門・学年：全専門／1年次生

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 「和声法」「鍵盤和声」「ソルフェージュ」「楽曲分析」など、音楽基礎科目関係の授業を受講するのに必要な知識を身につけるため、音楽理論の基礎を学ぶ。授業内テストを適宜行い、合格点に達した者から単位認定する。

授業計画

第1回	楽典の基礎(1)	第16回	鍵盤和声の基礎(1)
第2回	楽典の基礎(2)	第17回	鍵盤和声の基礎(2)
第3回	楽典の基礎(3)	第18回	鍵盤和声の基礎(3)
第4回	楽典の基礎(4)	第19回	鍵盤和声の基礎(4)
第5回	楽典の基礎(5)	第20回	鍵盤和声の基礎(5)
第6回	楽典の基礎(6)	第21回	鍵盤和声の基礎(6)
第7回	楽典の基礎(7)	第22回	鍵盤和声の基礎(7)
第8回	楽典の基礎(8)	第23回	鍵盤和声の基礎(8)
第9回	楽典の基礎(9)	第24回	鍵盤和声の基礎(9)
第10回	楽典の基礎(10)	第25回	鍵盤和声の基礎(10)
第11回	楽典の基礎(11)	第26回	鍵盤和声の基礎(11)
第12回	楽典の基礎(12)	第27回	鍵盤和声の基礎(12)
第13回	楽典の基礎(13)	第28回	鍵盤和声の基礎(13)
第14回	楽典の基礎(14)	第29回	鍵盤和声の基礎(14)
第15回	楽典の基礎(15)	第30回	鍵盤和声の基礎(15)

成績評価 試験、授業態度

テキスト 適宜プリント配布
〈参考図書〉

石桁真礼生他著『楽典 理論と実習』（音楽之友社）

菊池有恒著『楽典 音楽家を志す人のための 新版』（音楽之友社）

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

上野学園大学短期大学部 専攻科 音楽専攻

講義要旨

対象専門・学年：専攻科音楽専攻

開講学期：通年 単位数：4単位 開講形態：講義

授業目標 和声法、対位法、楽曲分析、作編曲法など、音楽理論が関連するすべての内容を研究の対象とする。さまざまな曲を多様な視点から分析できるようになることを目標とする。

授業計画 過去には、バッハ・ツェルニー・シューマンの鍵盤作品、イタリア・ドイツの歌曲などを研究してきたが、今年度何を研究するかは、受講生と相談しながら決めていく。また、受講生それぞれが研究テーマ（専攻科修了演奏作品に関するものが望ましい）を決め、授業内発表する。

	学生による分析	講師による分析
第1回	各自の研究テーマ(1)	さまざまな時代の作品(1)
第2回	各自の研究テーマ(2)	さまざまな時代の作品(2)
第3回	各自の研究テーマ(3)	さまざまな時代の作品(3)
第4回	各自の研究テーマ(4)	さまざまな時代の作品(4)
第5回	各自の研究テーマ(5)	さまざまな時代の作品(5)
第6回	各自の研究テーマ(6)	さまざまな時代の作品(6)
第7回	各自の研究テーマ(7)	さまざまな時代の作品(7)
第8回	各自の研究テーマ(8)	さまざまな時代の作品(8)
第9回	各自の研究テーマ(9)	さまざまな時代の作品(9)
第10回	各自の研究テーマ(10)	さまざまな時代の作品(10)
第11回	各自の研究テーマ(11)	さまざまな時代の作品(11)
第12回	各自の研究テーマ(12)	さまざまな時代の作品(12)
第13回	各自の研究テーマ(13)	さまざまな時代の作品(13)
第14回	各自の研究テーマ(14)	さまざまな時代の作品(14)
第15回	各自の研究テーマ(15)	さまざまな時代の作品(15)
第16回	各自の研究テーマ(16)	さまざまな時代の作品(16)
第17回	各自の研究テーマ(17)	さまざまな時代の作品(17)
第18回	各自の研究テーマ(18)	さまざまな時代の作品(18)
第19回	各自の研究テーマ(19)	さまざまな時代の作品(19)
第20回	各自の研究テーマ(20)	さまざまな時代の作品(20)
第21回	各自の研究テーマ(21)	さまざまな時代の作品(21)
第22回	各自の研究テーマ(22)	さまざまな時代の作品(22)
第23回	各自の研究テーマ(23)	さまざまな時代の作品(23)
第24回	各自の研究テーマ(24)	さまざまな時代の作品(24)
第25回	各自の研究テーマ(25)	さまざまな時代の作品(25)
第26回	各自の研究テーマ(26)	さまざまな時代の作品(26)
第27回	各自の研究テーマ(27)	さまざまな時代の作品(27)
第28回	各自の研究テーマ(28)	さまざまな時代の作品(28)
第29回	各自の研究テーマ(29)	さまざまな時代の作品(29)
第30回	各自の研究テーマ(30)	さまざまな時代の作品(30)

成績評価 授業内発表、レポート提出（前期：専攻楽器の作品の研究）、授業態度

テキスト 適宜プリント配布

オフィス・アワー 火・木（12：45～13：00）研究室

対象専門・学年：専攻科音楽専攻

開講学期：通年 単位数：2単位 開講形態：演習

授業目標 どのような曲にもその作曲家らしさがにじみ出ているものだが、それは作曲家が好んで使う和音や終止によく表れている。授業では課題の実習、分析、鑑賞を交えながら3人の作曲家に絞ったスタイル別和声法を研究し、それを今後の演奏活動に役立てると共に、発表の場を設ける事によって得た知識を元に指導する力を付ける事を目標とする。

授業計画

第1～7回 モーツァルトスタイル

第8～13回 ベートーヴェンスタイル

第14～15回 講義、自主研究

第16～24回 シューマンスタイル

第25～28回 講義、自主研究

第29～30回 授業内発表

成績評価 レポート、授業内発表、平常点による。中でも授業態度は大きく関係する。

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社）

オフィス・アワー 火（授業終了後）

備考 レポートや授業内発表について早くからアナウンスするため、休み期間をよく計画し余裕を持って準備に充てると良い。

上野学園大学短期大学部 音 楽 科
上野学園大学短期大学部 専攻科音楽専攻

平成23年度

講義要旨